



平成16年度 環境報告書

アクション エコ レポート 2005

Action Eco Report



MEITETSU[®]

名古屋鉄道

ごあいさつ

当社の主要な事業エリアである愛知県で、今年3月から185日間にわたって、国際博覧会「愛・地球博」が開催されました。「環境」を切り口にした万博は史上初めてのことで、思えば、これまでの万博は、主に技術や文明の進歩を示す場であり、その進歩を享受することで、私たちの暮らしは大変豊かなものとなりました。ただ一方では、文明の進歩が、私たちの意識しないところで、地球環境に大きな負荷をかけてしまっており、残念ながらようやく最近になって、それを「地球環境問題」として認識するようになったわけであり、

「愛・地球博」では“自然の叡智”というテーマを通じ、地球環境問題を解決し、持続可能な社会を形成するための考え方として「自然の仕組みや生命の力を学び、人間と自然とが永く共生していく道を探ろう」というメッセージが発信されました。自然豊かな中京圏の地域社会に根ざし、地域とともに発展してきた当社にとって、これからも地域価値の向上に努め、永く社会に貢献するという使命を果たしていくためには欠かせない、重要な考え方であると思っております。

今年2月には、地球温暖化を世界規模で食い止めようとする「京都議定書」も発効しましたが、“自然の叡智”を一人ひとりが尊重し、意識してその解決に取り組むことによって、議定書の公約達成にも近づくものと思っております。企業市民の一員である当社、あるいは名鉄グループとしても、地球環境問題を自分自身の問題と捉え、継続的に取り組みを進めていくことは、企業経営を行う以上、最低限の責務であると認識し、経営課題としてその取り組みを一層推進しなければならないと、強く考えている次第でございます。

当社は、エネルギー効率の高さから「環境にやさしい」乗り物といわれる鉄道を事業の柱としていますが、地球温暖化防止の必要性が高まるにつれ、当社の果たすべき役割は、今後ますます大きくなるものと認識しております。その役割を果たすため、効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、より多くのお客さまに鉄道をご利用いただけるよう、最大限努力することこそが、当社に課せられた地球環境問題に対する最大の命題であり、当社における環境経営の柱であると考えております。

その上で、省エネ車両の導入や、乗車券のリサイクル、廃棄物の削減など、事業に伴う環境負荷の軽減に対しても、地道に、継続的に、取り組んでまいりました。そうした数々の取り組みを、当社に関わる多くの方々にご理解いただくため、毎年環境報告書を作成いたしております。ぜひ高覧賜り、今後も環境への取り組みをさらに向上させていくためにも、忌憚なきご意見を頂戴できれば幸いに存じます。

平成17年9月

名古屋鉄道株式会社
代表取締役社長

木村操



目次

めいてつエコmap(環境活動概要図)—— 1

I. 環境マネジメントシステム

1.名鉄エコ・ビジョン	3
2.ISO14001の取り組み	4
3.環境モデル路線	5
4.環境教育	6
5.法規制の遵守	7
6.環境会計	8

II. 環境負荷低減に向けたアクション

1.地球温暖化防止・省エネルギーへの取り組み	
鉄道事業	9
バス事業	11
駐車場・駐輪場の整備	13
その他の取り組み	14
2.廃棄物の削減とリサイクルへの取り組み	
廃棄物の現状	15
廃棄物の削減	15
リサイクルの推進	16
グリーン購入の推進	18
3.環境汚染物質削減への取り組み	19
4.沿線環境保全への取り組み	19

III. 社会的環境活動へのアクション

1.環境コミュニケーション	20
2.自然環境保護	21
用語解説	21
環境負荷データ	22

名鉄グループの環境活動	23
愛・地球博における取り組み	27
環境への取り組みの沿革	29
路線図	29
会社概要	31
編集後記	31

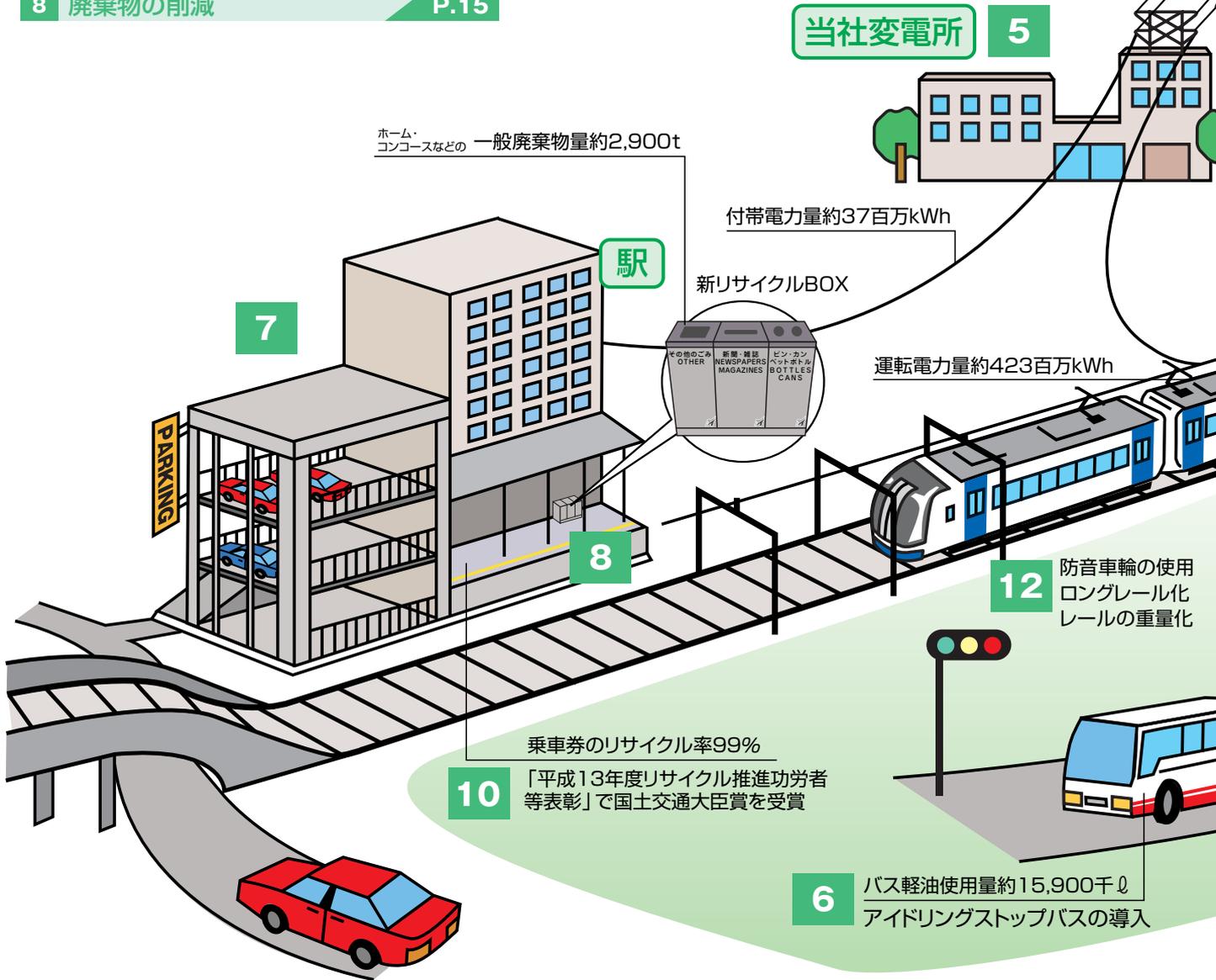


記載対象範囲:名古屋鉄道(株)・(株)名鉄インプレス・名鉄バス(株)の事業範囲
 記載対象期間:平成16年4月1日から平成17年3月31日まで
 (ただし、平成17年度の活動内容も一部記載しております)

めいてつエコmap

環境活動概要図

1	ISO14001の取り組み	P. 4	9	紙使用の削減	P.15
2	環境モデル路線・駅	P. 5	10	乗車券のリサイクル	P.16
3	環境教育	P. 6	11	リサイクル作業服	P.18
4	鉄道車両の省エネルギー化	P. 9	12	騒音の低減	P.19
5	電力施設の省エネルギー化	P.10	13	体験型環境イベント開催	P.20
6	バスの省エネルギー化	P.11	14	自然環境保護	P.21
7	パーク&ライド駐車場	P.13	15	愛・地球博における取り組み	P.27
8	廃棄物の削減	P.15			



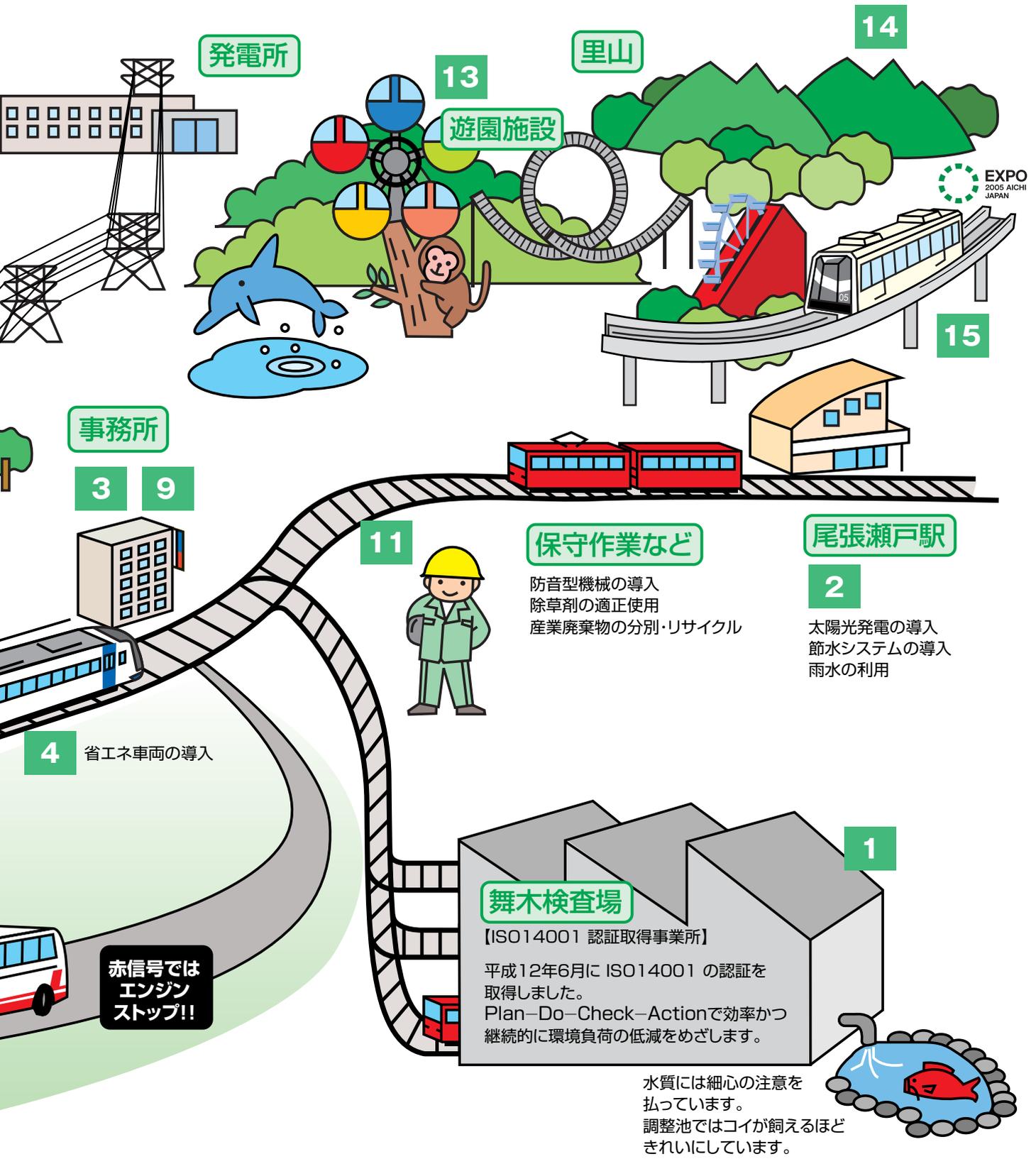
1 舞木検査場



2 環境モデル駅(尾張瀬戸駅)



4 省エネ車両(2000系)



電気式ハイブリッドバス



パーク&ライド駐車場 (国府宮駅)



ドングリの苗植え会 (日本モンキーパーク)

I.環境マネジメントシステム

1. 名鉄エコ・ビジョン

名鉄では環境対策に全社をあげて取り組むため、平成10年4月、社内に「アクション・エコ推進委員会」を設置し、環境対策への行動計画として「名鉄エコ・ビジョン」を策定しました。現在この計画に沿って、さまざまな環境対策に取り組んでいます。

■基本理念

名鉄は、環境問題を地球規模で考え、
地域・個人レベルで行動し、
環境にやさしい企業をめざします。

より効率的でより利便性の高い公共交通サービスを提供することが、名鉄の最大の責務であることを認識し、輸送事業をはじめとするさまざまな事業活動および従業員行動のあらゆる面で、地域の皆さまとともに、環境の保全と向上のために組織的・継続的に行動していきます。

■行動目標

- ①省エネルギー・リサイクル・省資源などの目標を掲げ、CO₂削減目標を実現します。
- ②オゾン層破壊物質を早期に回収、撤廃します。
- ③舞木検査場におけるISO14001の活動を全社で取り組みます。
- ④モデル駅などを設定し、地球にも人にもやさしい施設づくりを推進します。
- ⑤各方面の関係機関と協力し、公共交通の利便性の向上をめざします。

■行動指針

- ①環境対応技術の積極的導入
 - 鉄道事業では、乗車券のリサイクル、車両の省エネ・軽量化、冷房における代替フロンなどの導入を一層推進していきます。
 - バス事業では、ハイブリッドバスなどの低燃費バスの導入や停車中のエンジンカットなどを推進します。
 - レールやマクラギ、コンクリート材、タイヤなどの使用済み品のリサイクル率を向上させます。
 - 100%再生紙の導入や太陽エネルギーを利用した施設、省エネタイプの機器、備品、再生しやすいように配慮された製品などを、ある程度のコスト増は環境改善コストとして認識し積極的に導入します。
- ②輸送体系の整備
 - 鉄道・バスなどは、大量輸送を実現してこそ環境負荷を低減できるという考えのもと、今後もより効率的で利便性の高いサービスの提供に努めます。
そのためには、独自の活動はもとより、周辺自治体や他の輸送会社、並びに輸送手段との連携を強化し、「移動の改善」「輸送体系の整備」を重視した活動を展開し

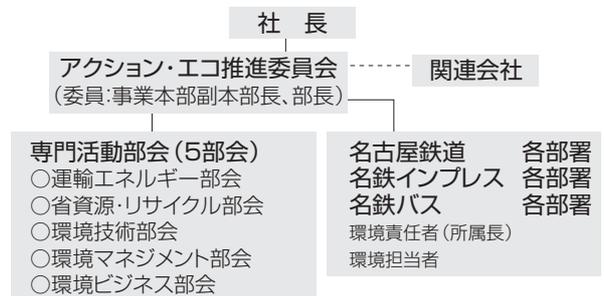
ていきます。

③環境保全意識の向上と地域環境貢献

- 社員への啓蒙活動を継続し、環境への高い意識を持つ企業をめざします。
- 環境負荷に対する的確な情報を常に吸収し、理解を深める努力を続けていきます。
こうした活動を地域へ広げることも必要と考え、環境配慮型イベントなどを開催し、地域の環境保全意識の向上を支援していきます。

■推進体制

全社的な取り組み体制として「アクション・エコ推進委員会」(委員長:西川代表取締役副社長、事務局:経営企画部)を設立し、5つの部会で具体的な対策を検討しています。



*名古屋鉄道から分社した名鉄インプレス・名鉄バスは、分社後も、この体制の一員として活動しています。

■専門活動部会の役割

- 運輸エネルギー部会(鉄道分科会・自動車分科会)
運輸エネルギーの効率使用のための施策の検討と実施。
- 省資源・リサイクル部会
事務部門における省エネルギー対策とリサイクル、グリーン購入の検討。
- 環境技術部会
環境汚染物質の削減策の検討と環境技術の開発。
- 環境マネジメント部会
ISOの維持管理とそのノウハウを活用した環境教育、環境監査の実施。
- 環境ビジネス部会
グループ力を生かした環境ビジネスの企画立案と実施。

■今後の展開

企業の環境活動・環境影響が、企業グループの視点で評価される時代であることを踏まえ、「名鉄エコ・ビジョン」を「名鉄グループ エコ・ビジョン」と改正し、グループの基本理念としての新たな意味付けをするとともに、名鉄グループ全体でより効果的な環境活動が行える体制を早期に構築していきます。

2. ISO14001の取り組み

平成12年6月、当社の舞木検査場は、中部地区の鉄道事業者として初めてISO14001*の認証を取得し、以来、継続的に活動を進めています（認証機関：(財)鉄道総合技術研究所）。

ISO14001:2004規格に対応して、マニュアル等の文書を改訂しサーベイランスを受審しました。引き続き環境マネジメントシステムが機能していることが認められています。

検査場では、毎月環境管理委員会を開催して、活動状況を確認するとともに、内部監査員の育成をはじめとする各種教育を継続的に進め、活動内容と管理体制の充実に引き続き努めています。また、システムの遵法体制を活かし、PCB廃棄物特別措置法やPRTR法*のほか、新たに施行される環境関連法令に迅速に対応しています。



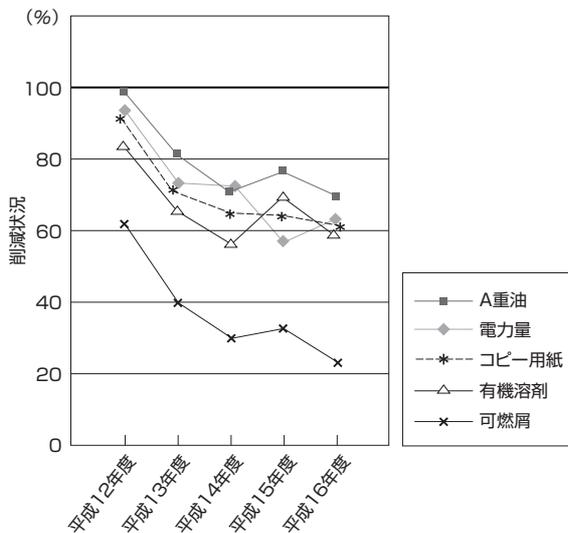
■舞木検査場ISO14001認証登録証

認証を取得してからすでに5年が経過しましたが、検査場での環境負荷は着実に低減が図られており(下記表参照)、環境にやさしい車両検査場として、また当社環境活動のモデルとして重要な一翼を担っています。平成15年度に新たに設定した目的(中期計画)も、所属従業員全員で着実に実践し、また定期的に見直しを繰り返すことで、より一層環境にやさしい検査場をめざしています。



サーベイランスの様子

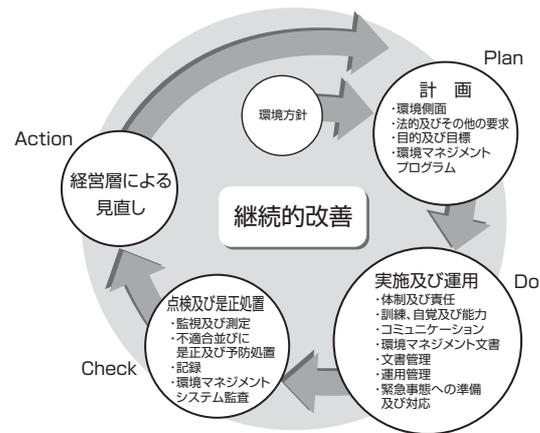
□各活動達成状況(平成10年度比)



□環境改善結果(平成10年度比)

活動項目	平成10年度実績		平成16年度実績		削減量	単価		改善効果(金額)
	金額	内容	金額	内容		金額	内容	
電気使用量の削減	2,595,650.5	kwh	1,911,290.0	kwh	684,360.5	12.0	電力使用料金	8,229,435
灯油使用量の削減	14,602.8	ℓ	8,149.0	ℓ	6,453.8	69	灯油代	445,315
重油使用量の削減	146,003.0	ℓ	122,906.0	ℓ	23,097.0	37	A重油代	854,590
塗料・有機溶剤使用量の削減	11,985.9	ℓ	8,282.8	ℓ	3,703.1	1,144	塗料・有機溶剤代平均単価	4,234,924
コピー用紙使用量の削減	989.9	kg	725.5	kg	264.4	370	コピー用紙代/OA用紙代	97,845
ウエス使用量の削減(可燃屑の削減)	13,255.0	kg	985.9	kg	12,269.1	288	ウエス代/ウエス廃棄代	3,533,508
レンタルウエス代	0	円	950,550	円				▲950,550
可燃屑の削減	336,000	円	238,230	円				97,770
合計								¥16,542,837

環境マネジメントシステム ISO14001認証取得の取り組み



*P21の用語解説をご参照下さい。

3. 環境モデル路線

当社では2005年日本国際博覧会（愛・地球博）のアクセスルートである瀬戸線を「環境モデル路線」と位置付けています。リサイクル品の利用や省エネルギー対策設備の設置など、環境にやさしい施設づくりを進め、お客さまと共に環境について考えるキャンペーンを推進しています。

平成13年4月から使用を開始した尾張瀬戸駅新駅舎には、環境モデル駅として太陽光発電システムの導入、ホーム仕上げに瀬戸産残土（珪砂）を含んだブロックの使用、乗車券を再利用したベンチの使用、トイレの便器洗浄に雨水を利用するなど環境に配慮した設備・材料を導入しています。



尾張瀬戸駅舎「登り窯」をイメージしてつくられました



雨水タンク



太陽光発電パネル



ブロック



乗車券リサイクルベンチ

また、お客さまと共に廃棄物について考える「コミュニケーション」を小幡駅にて実施し、お客さまからご意見を頂戴しながら、駅における廃棄物の削減活動を展開しました。

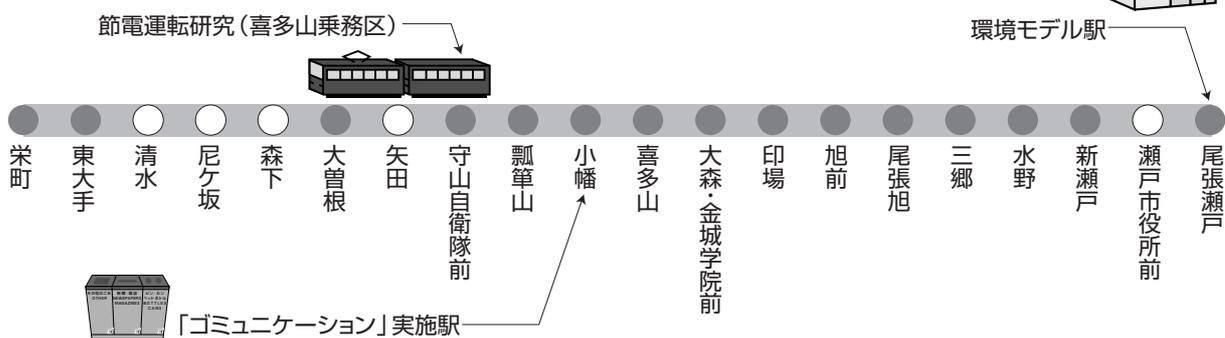
瀬戸線を管轄する駅・乗務区等では、定期的に環境に関する標語を従業員から募集、掲示して意識の高揚を図るとともに、節電運転研究や、食事で使用したわりばしのリサイクルにも取り組むなど、日頃から環境に配慮した取り組みを行っています。



さまざまなエコ標語



■「環境モデル路線」瀬戸線 路線図



4. 環境教育

企業が環境活動を行う上で、従業員一人ひとりが環境問題に対して正しい認識を持つことは、非常に重要なことです。当社では、入社時や管理職昇格時の研修において環境教育を行っています。また、人事制度における教育プログラムとは別に外部講師を招いた講演会(めいてつエコ・セミナー)も開催しました。

□平成16年度 環境教育

	受講者数(実施回数)
管理者基礎研修	38名(1回)
新任駅長研修	10名(1回)
新入社員研修	8名(1回)
めいてつエコ・セミナー	100名(1回)
総受講者数	156名(4回)



めいてつエコ・セミナー「地球環境時代における公共交通事業」

さらに全社的に環境への意識を一層向上させるため、平成11年度から夏・冬の年2回「エコ・キャンペーン」を実施しています。このキャンペーンの期間中は、各職場でゴミの分別・減量、リサイクルの推進、エネルギーの節約などの重点実施項目を設定し、実施状況などの管理を行っています。そのほか、社内報「れいめい」や電子掲示板を使用し、環境に関する情報を発信しています。



社内報「れいめい」

■EXPOバックヤードツアー

従業員を対象に環境見学会「EXPOバックヤードツアー」を平成17年5月に実施し、約30名が参加しました。

これは、愛・地球博パビリオンの裏側で活用されている最新の環境技術を、ガイドの案内により視察して巡るものです。最先端の技術に触れることで、環境保全の重要性を認識してもらい、今後の環境活動の糧となることを期待しています。



EXPOバックヤードツアー

■名鉄エコ・クラブ

平成11年10月、全従業員向けに「名鉄エコ・クラブ」を設立しました。

会員は名鉄エコ・クラブ会員証に個人の環境活動目標を書き、環境にやさしい行動を心掛けています。またエコ・クラブ会員を対象に環境関連イベントを実施し、より一層、環境意識の向上を図っています。



名鉄エコ・クラブ会員証

(環境活動目標の例)

- ・私は資源をゴミとして捨てないよう、地域のルールに従って分別します。
- ・私はコピーやプリンター用紙に、使用済みの裏紙を使用します。
- ・私は近距離移動において、マイカーではなく自転車を積極的に使用します。

5. 法規制の遵守

名鉄グループにおけるコンプライアンス体制の確立をめざして、平成15年12月「名鉄グループ企業倫理基本方針」を策定しました。これに基づき、環境活動においても、関連法令や条例を遵守し、社会的責任を確実に果たせるよう努めています。

■コンプライアンス体制の確立

法令や社内規則に加え、社会通念上の倫理や道徳を含む社会規範を遵守し、誠実に行動するため、「企業倫理委員会」を設立し、その後「企業倫理ヘルプライン」を設置するなど、コンプライアンス体制の確立に努めてきました。そして、その行動原則となる「名鉄グループ企業倫理基本方針」を策定しました。

この基本方針は、名鉄グループが、地域社会からの信頼を得ることを基本的姿勢とし、誠実かつ公正な事業活動を行うことにより、社会の発展に貢献することを目指しています。その目標を達成するために、5つの基本原則と22項目の行動指針を定め、私たちの役割と責任を明確にしています。

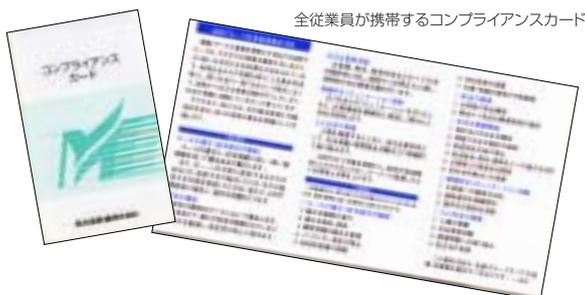


名鉄グループ企業倫理基本方針 基本原則

- ① ルールの遵守 (法令遵守の徹底)
- ② 安全の確保
- ③ 公正な事業活動
- ④ 積極的なコミュニケーション活動
- ⑤ 人と社会の尊重

なお、この「企業倫理基本方針」は、名鉄グループ全体で共有するものとし、当社では別に「企業倫理行動マニュアル」として、鉄道事業を中心に対応した当社独自のマニュアルを作成しました。その中で、環境問題に対しては、「名鉄エコ・ビジョン」の基本理念に従い、環境に対する負荷軽減に努め、地球環境に優しい企業をめざす」という行動指針を定めています。

グループ各社においても、それぞれの事業に合致したマニュアルを各社または業種ごとに制定する予定で、今後一層名鉄グループ全体のコンプライアンス体制の確立を目指していきます。



全従業員が携帯するコンプライアンスカード

■環境関連法令の遵守

近年、頻繁に改定される環境法令を確実に遵守していくために、アクション・エコ推進委員会事務局（経営企画部内）では、法令の施行・改正動向を常に監視するとともに、各職場での監査項目に環境項目を盛り込み、業務の中で環境法令を常に意識できるような仕組みづくりを進めています。

●主な環境関連法令の遵守状況

①PRTR法*

車両検査場を中心に、指定化学物質の使用量を確実に把握し、厳正な管理に努めています。

②PCB特別措置法

過去に電気設備を中心に使用していたPCB含有製品を、1個1個漏洩のないように保管・管理しています。

③産業廃棄物処理法

産業廃棄物の処理委託時に発行するマニフェストを用い、処理方法と処理先を廃棄物排出部署等で確実に管理しています。

④NOx・PM法

法規制の対象となるバスを順次、同法に対応した車両に更新するとともに、交差点でのアイドリングストップの励行など大気汚染防止にも努めています。

このほか、沿線関係自治体が制定した条例の把握にも努め、確実に対応できるようにしています。

■環境監査の実施

平成16年度から業務監査の一環として導入された「自己監査」に、環境関係項目を盛り込み、7月より実施しました。環境法令の遵守状況を中心に、計14項目の監査項目を設けました。

年度内に監査を実施した27部署での結果では、本社・現業とも良好な結果となり、環境意識が十分に浸透しているものと思われます。

今後は監査項目を増やし、結果を精査するとともに、監査方法の強化も検討しています。

■環境関連訴訟の有無

当社において、平成16年度中に、環境に関する訴訟はありませんでした。

*P21の用語解説をご参照下さい。

6. 環境会計

当社では環境活動をより効率的に行うために、平成12年度から環境会計を導入しています。

平成16年度の環境保全活動に伴うコストは約2,975百万円、環境活動によって得られる効果は、約86百万円でした。

平成16年度は、空港線の開業に向けて行った車両の新造や駅・軌道・電気設備等の改良において、環境への配慮を可能な限り実施したため、環境保全コストは大きく増加しました。今後も可能な限り環境活動を定量的に把握し、活動の効率性を高めていきます。

環境保全コスト

単位:千円

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額	
(1) 事業エリア内コスト		2,673,571	203,610	
内 訳	① 公害防止コスト	騒音対策(ロングレール化、PCマクラギ化、レールの重量化、防音車輪の導入など) 大気汚染防止策(アイドリングストップバス、電気式ハイブリッドバスの導入など)	1,577,159	114,678
	② 地球環境保全コスト	き電線の強化 パーク&ライド駐車場の整備 フロンの回収など	1,096,412	7,909
	③ 資源循環コスト	廃棄物の処理 発生残土の処理など	0	81,022
(2) 上・下流コスト	グリーン購入	5,393	34,633	
(3) 管理活動コスト	ISO14001の維持費 環境教育、人件費など	1,374	27,226	
(4) 社会活動コスト	環境コミュニケーション活動など (広報宣伝、イベントなど)	0	29,380	
合計		2,680,339	294,849	

環境保全効果

環境保全対策に伴う経済効果 単位:千円

効果の内容	環境保全効果を表す指標		効果の内容	金額	
	指標の分類	指標の値(量)			
(1) 事業エリア内で生じる環境保全効果(事業エリア内効果)	① 事業活動に投入する資源に関する効果	鉄道電力	—	収益 主たる事業活動で生じた廃棄物のリサイクルまたは使用済み製品等のリサイクルによる事業収入	47,623
		太陽光発電	1,018kWh		
		バス軽油	453,273ℓ		
		水道水	11,860m ³		
(2) 上・下流で生じる環境保全効果(上・下流効果)	② 事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する効果	使用済み乗車券の再資源化による廃棄物抑制量	80.1t	費用 省エネルギーによるエネルギー費用削減	33,848
		—	—		
(3) その他の環境保全効果	③ 事業活動から産出する財・サービスに関する効果	—	—	費用 省資源またはリサイクルに伴う廃棄物処理費用の削減	4,853
		—	—		
④ 輸送その他に関する効果			—	合計	86,325

■集計について

集計範囲と期間:名古屋鉄道(株)・(株)名鉄インプレス・名鉄バス(株)の事業範囲、平成16年4月1日から平成17年3月31日

- ・現状において確実に把握が可能、かつ環境目的が高い項目を計上
- ・消費税を除き、千円未満を切り捨て
- ・投資は、固定資産に計上されるもの、費用はそれ以外のものを集計
- ・費用額に減価償却費は含まない
- ・事務用品におけるグリーン購入費用は全額計上
- ・環境省「環境会計ガイドライン」と(社)日本民営鉄道協会「民鉄事業環境会計ガイドライン」に準拠

Ⅱ.環境負荷低減に向けたアクション

1. 地球温暖化防止・省エネルギーへの取り組み

鉄道事業

鉄道事業では以下の目標を達成するために、車両の省エネルギー化や電気設備の改良を図りエネルギーの効率的な利用に取り組んでいます。

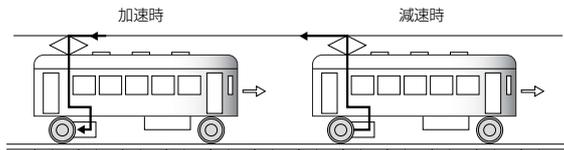
■目標

平成20年度の電車のエネルギー原単位*を平成15年度比2.5%減(2.1kWh/Car-km)とする ※電車1両が1km走行するのに要する電力量

■車両の省エネルギー化

鉄道事業では省エネルギー化のため、車両の軽量化と共に回生ブレーキ*やVVVFインバータ制御車などの省エネ車両を順次導入しています。平成16年度末までに、この省エネ車両を810両(1161両中)導入し、全体の70%となっています(右グラフ参照)。

□回生ブレーキの仕組み



②回生された電力をもらって加速する。 ①ブレーキ時に、モーターを発電機として作用させ、発生する電力を架線へ返す。

□VVVFインバータ制御車の仕組み

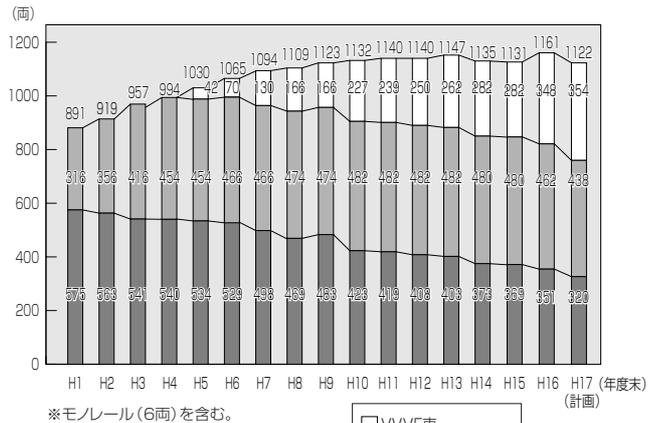


平成14年に導入した300系には、当社では初となる「純電気ブレーキ*制御」を採用し、電力消費量の削減を図っています。従来型車両(パノラマカー7000系)と比較すると、約46%の電力で運転することが可能です。また「ステンレス車体*」を採用することで、検査時の車体外板塗装を省くとともに、車両の長寿命化を図り、省資源にも配慮しています。

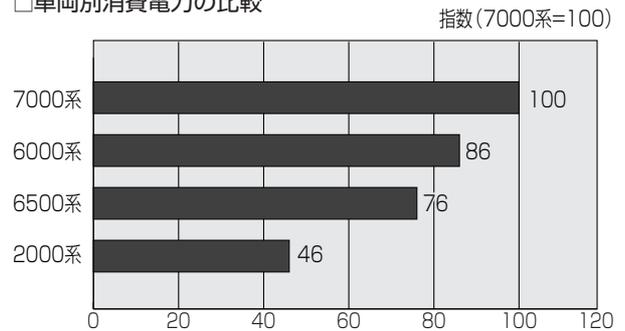


300系車両

□省エネ車両数の推移



□車両別消費電力の比較



■電力委員会の設置

電車の運転に関する電力を節減するため、電力委員会を設置し、ダイヤの特性を理解して無駄な加速をなくすなどの電力節減活動を継続的に行っています。



電力委員会

*P21の用語解説をご参照下さい。

■電力施設の省エネルギー化

①力率改善コンデンサー*の設置

変電所ではエネルギー効率を向上させるため、力率改善コンデンサーの設置を平成5年度から進めており、現在39変電所中10変電所で使用しています。

②き電線*の強化

電力損失の低減化を図るため、き電線を太くするなどの強化を進めています。

平成16年度には9.0kmのき電線を強化し、電気鉄道路線477.8km中382.6km(80%)が強化済みです。

平成17年度は竹鼻線笠松～西笠松(0.9km)のき電線を強化する予定です。

③上下線一括き電方式の導入

架線に流す電力の損失低減と、回生電力の有効活用を図るため、当社ではほとんどの線区で上下線一括き電方式を採用しています。

上下線のき電線を接続して、走行中の電車までの最短距離で、変電所からの電流を流すことができます。また、回生ブレーキによって発生させた電力を上下線の車両で有効に使えるメリットもあります。

■運転現場における取り組み

運転現場の各部署では、運転電力の削減を中心としたテーマ等で研究会を開催し、乗務員の環境意識の向上を図っています。平成16年度も、各部署において担当線区の現状に即した研究発表が多数行われました。



研究発表風景

■2000系「ミュースカイ」の環境配慮

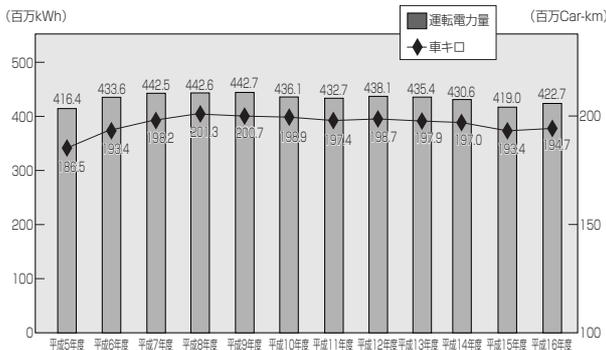
当社では、平成17年1月、空港アクセス専用特急2000系(愛称:「ミュースカイ」)を製作、運行を開始しました。環境の時代を意識して、車両の随所に環境配慮を施しています。



■電力の使用状況

平成16年度は、10月に中部国際空港の工事関係者輸送のために空港線を暫定開業、1月に空港線を本格開業させました。空港アクセスの利便性向上のために、運行本数を増加、そのため前年に比べ運転電力量・車両走行キロとも増加となりました。夏季の異常気象(大雨・猛暑)の影響もあり、1年間で見ると、1車両1キロ当たりの電力使用量は増加しましたが、車両の新造や従来型車の廃車を進行させており、全線での電力使用効率率は、着実に向上傾向にあります。

□運転電力量と車両走行キロの推移



□1車両1キロ当たりの電力使用量の推移



- ・反射型LCD表示器
- ・幕式に比べ、昼間はバックライト不要で電源を断っても表示を保持できる
- ・清水空圧式汚物処理装置(トイレ)
従来のカセット方式をタンクにすることで産廃の削減が可能
- ・配線にエコケーブルを使用
- ・被覆材に塩化ビニルなど、廃棄時に環境を汚染しない材料を使用
- ・VVVFインバータ制御
- ・冷媒に純水を使用
- ・純電気ブレーキ制御
- ・台車の軽量化(ボルスタレス台車使用)
- ・代替フロンの使用
- ・リサイクル可能なシートクッション材



*P21の用語解説をご参照下さい。

バス事業(平成16年10月、名鉄バス(株)に分社独立しました。)

バス事業では以下の目標を達成するために、車両の省エネルギー化や燃料節約運動によりエネルギー効率の向上に取り組んでいます。

■ 目 標

平成18年度までにバスの燃費を1ℓ当たり
3.4km以上とする

■ 車両の省エネルギー化

バス事業では燃費向上のため、停車時にエンジンカットを自動的に実施するアイドリングストップバスを導入しております。また、需要が比較的少ない路線には中・小型バスへの切り換えをすすめ、エネルギーを効率的に使用できるよう努めています。

■ 自動車NOx・PM法への対応

平成13年6月に、自動車NOx・PM法が成立し、愛知県のほぼ全域と三重県の一部が新たに対策地域に指定され、排出基準を満たさない車両は、12年を超えての使用ができなくなりました。

当社では平成14年度から、排出基準を満たさない車両の更新を前倒しし、平成18年度までに約400両を更新する計画で、基準を満たした車両への入れ替えを進めています。

また、新造車には粒子状物質の排出を減らす、酸化媒体装置の取り付けも実施しています。



バリアフリー対応のアイドリングストップバス

■ フロンガスへの対策

エアコンの冷媒として使用されることが多いフロン(フロン12A)は、オゾン層破壊の懸念から、平成8年に製造中止されております。

当社のバスのうち、平成5年以降に導入した車両については、環境破壊に影響のない代替フロン(フロン134A)を使用するエアコンを搭載しています。また、フロン12Aを使用したエアコンを搭載した車両についても、順次新フロン使用のための改造を実施しています。

■ デジタルタコグラフの導入

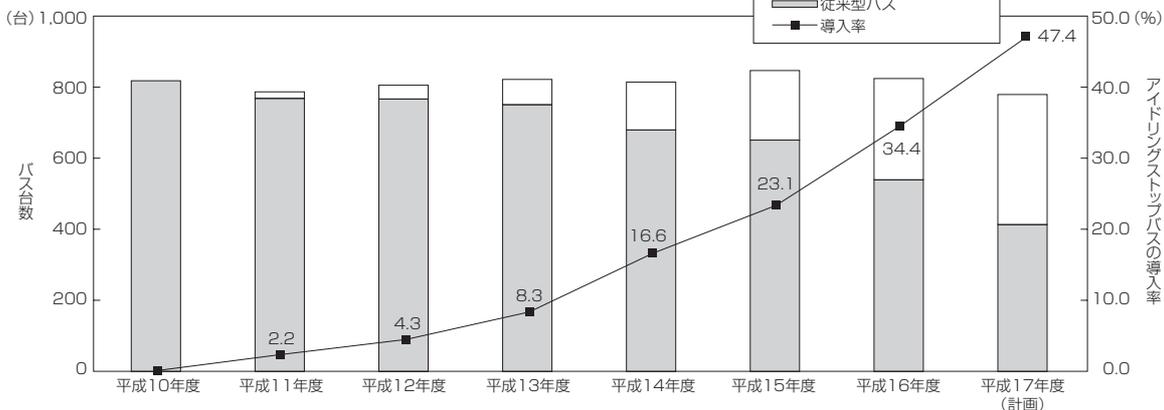
平成13年度から、さらなる燃費の向上をめざして、デジタルタコグラフ*の導入をすすめ、平成16年度中に、全ての車両への設置を完了しました。

デジタルタコグラフの導入が直接燃料の使用量を減らすわけではなく、乗務員一人ひとりの意識の違いが、その効果を大きく左右します。営業運転終了後、乗務員がパソコンで各自結果を分析をすることで、効率のいい運転方法の見直しに努めています。



デジタルタコグラフ分析風景(名古屋中央営業所)

□ アイドリングストップバス導入の推移

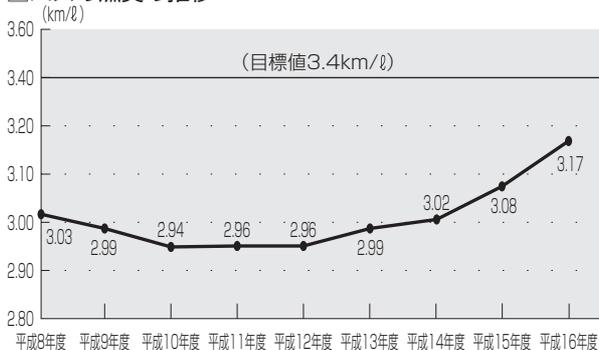


*P21の用語解説をご参照下さい。

■燃料の使用状況

バス全車両においてアイドリングストップ運動を実施しており、起終点及び停留所などにおいてエンジンカットを行うほか、ドライバー一人ひとりの目標として、「1ℓ当たりの燃費を100m向上」を挙げ、燃料使用量の削減と環境負荷軽減を推進しています。

□バスの燃費の推移



■その他の取り組み

①100円バス

平成14年4月から名鉄バスの定期券をお持ちのお客様を対象に「100円バス」のサービスを開始しました。これは、土曜日と休日に定期券のご利用区間外のバス路線（一部除く）に1乗車100円でご利用いただけるもので、マイカーからバス利用への転換による、環境負荷軽減の効果を期待しています。



②電気式ハイブリッドバスの導入

平成16年7月に、電気式ハイブリッドバスを試験的に導入しました。このバスには、補助動力として電動機（モーター）を搭載しています。減速時の制動エネルギーをモーターで電気エネルギーに変換して蓄え、加速時の動力として活用できるため、主動力であるディーゼルエンジンの負担を軽くすることができます。燃料が節約でき、また有害物質や黒煙の排出を抑えることもできるため、環境負荷軽減にも役立ちます。愛・地球博開催中は、パーク&ライド駐車場と会場とを結び「環境にやさしいシャトルバス」として、運行しました。



電気式ハイブリッドバス

■愛・地球博での取り組み

愛・地球博へご来場のお客さまに、環境にやさしい交通手段として、駅シャトルバス「EXPOライナー」を名古屋駅（名鉄バスセンター）と尾張瀬戸駅から毎日運行しました。延べ約200万人のお客さまにご利用いただき、環境負荷軽減に寄与しました。

また、尾張瀬戸駅からの駅シャトルバスでは、国土交通省の「スマートプレート」実証実験に協力しました。バスのナンバープレートにアンテナを取り付けることで、バスの座席数や車椅子利用の可否、所要時間等をインターネット等でご案内できるため、公共交通機関をスムーズにご利用いただけるなどのメリットがあります。将来的には渋滞緩和や排ガス規制の違反車両の取締り等への活用も期待されています。

ズにご利用いただけるなどのメリットがあります。将来的には渋滞緩和や排ガス規制の違反車両の取締り等への活用も期待されています。



駅シャトルバスのナンバープレートに付けられた「スマートプレート」

●「環境保全条例」への対応について

愛知県と名古屋市では、平成15年10月、事業活動において地球温暖化防止のための自主的な取り組みの促進を図る「環境保全条例」を施行し、一定規模以上の温室効果ガスを排出する事業者に対して「地球温暖化対策計画書」の作成を義務付けました。当社では、条例の対象となる各事業所について、条例に基づく計画書を作成しています。詳しくは、下記までお問合せ下さい。

【お問合せ】名古屋鉄道株式会社 経営企画部（企画担当）

電話 (052) 588-0805 (月～金10時～17時) Eメール action-eco@nrr.meitetsu.co.jp

駐車場・駐輪場の整備

■パーク&ライド駐車場

鉄道など公共交通機関の利用を促進することが、最終的にCO₂の発生量を抑制し、ひいては地球温暖化防止に結びつくと考えています。そのために当社では、鉄道・バスとマイカーを組み合わせる移動するパーク&ライドを積極的に推進しています。

平成16年度末現在、駅周辺や鉄道高架下の空地を活用して、約20,000台を超える駐車場を整備し、ご利用いただいております。特に、名鉄一宮駅では駅の高架化にあわせて、既存の立体駐車場と接続させた約600台収容のパーク&ライド駐車場を線路上に整備し好評を得ております。

一部のパーク&ライド駐車場では、当社の乗車券をお持ちのお客さまを対象に、パーク&ライド駐車場で利用可能なプレミアムつきプリペイドカードを、さらに割引して発売し、利用の促進を図っています。



名鉄一宮駅駐車場

□最近のパークアンドライド駐車場の整備状況

	駅名	合計台数
平成16年度新設	妙興寺、若林、豊田本町、寺本、高横須賀、藤浪、ニケ坂、森下、喜多山、尾張瀬戸	124台
平成17年度予定	本星崎、小幡、旭前、新瀬戸	60台

※当社直営駐車場のみの数値。

また名鉄百貨店では、お客さまの商品購入金額に応じて、当社鉄道線ご利用分の運賃還元サービス(片道分・時期限定)や、沿線のパーク&ライド駐車場の利用券サービス(通年)を始めており、グループ会社と一体となって鉄道利用促進を図っています。



お歳暮早期承り時運賃分還元のご案内

■駐輪場

駅周辺の放置自転車は、現在社会問題の一つともなっており、周辺の住環境に影響を及ぼしかねません。当社では、その問題を解決するとともに、鉄道利用の一層の促進を図るため、地方自治体と協力して駐輪場の設置をすすめています。平成16年度末現在、約46,000台の駐輪場を整備し、ご利用いただいております。



小幡駅駐輪場

その他の取り組み

■太陽熱温水器と氷蓄熱システムの導入

当社ではエネルギー節減のため、車両検査場において太陽熱温水器を導入し、自然エネルギーを従業員用浴場などに有効活用しています。現在、舞木検査場、犬山検査場、豊明検査場、尾張瀬戸駅では、雨水利用システムを導入しています。雨水は処理されたあと、車両やトイレの洗浄水として利用しています。

また、氷蓄熱システムを上小田井電力指令所と名鉄新一宮ビル（一宮市）に導入しています。今後、導入可能な事業所について順次設置を進めていきます。



氷蓄熱システム（名鉄新一宮ビル）

■コジェネレーションシステムの導入

名鉄新一宮ビルにはコジェネレーションシステムを導入しています。このシステムは、都市ガスで自家発電を行うと同時に、発電時に出る廃熱も有効利用できます。エネルギー効率率は、電力会社から送られてくる電力が35%程度であるのに対し、このシステムでは70～90%となっています。



コジェネレーションシステム（名鉄新一宮ビル）

環境技術セレクション100

愛知県環境部が選定した「環境技術セレクション100」に、当社の乗車券リサイクルシステムと、水なしトイレが選ばれました。このセレクションでは、優れた環境保全技術や省エネ・新エネ技術を導入した県内の企業等を選定し、愛知県環境部ホームページ「エコスポットあいち」で詳しい情報を公開しています。

●「エコスポットあいち」ホームページ

<http://kankyojoho.pref.aichi.jp/ecospot/>

■水資源の節約

①雨水の利用

雨水を有効利用するために、舞木検査場、犬山検査場、豊明検査場、尾張瀬戸駅では、雨水利用システムを導入しています。雨水は処理されたあと、車両やトイレの洗浄水として利用しています。

このほか、平成12年度より、名鉄新一宮ビルと名鉄長住町ビル（岐阜市）にも雨水利用システムを導入しています。平成16年度は、名鉄新一宮ビル使用の雑用水のうち45%（年間8,274m³）を、名鉄長住町ビルでは雑用水の65%（年間4,275m³）を雨水によりまかさないました。

②節水システムの導入

平成14年5月に環境モデル路線である瀬戸線のトイレや洗面所を中心に、節水器具の取り付けや水量タンクの調整を行いました（施工可能な全15駅）。適正な水量を維持できるため、導入前後で年間約16%の水資源節約効果を生んでいます。

□瀬戸線における節水システム導入状況

節水バルブの取り付け	15駅53カ所
自動水洗改造	2駅9カ所
タンク調整	10駅37カ所
フラッシュ弁調整	5駅22カ所

③「水なしトイレ」の設置

平成15年5月、大同町駅（常滑線）に水を使わないトイレを試験的に設置しました。このトイレ（小便器）は、通常の排水口付近のトラップに天然成分の特殊な油を貯めておくことで、尿の逆流と臭いを抑えることができ、洗浄水を一切必要としないトイレです。洗浄水を使用せず、CO₂の排出量も抑えることができるため、引き続きこのトイレの導入効果を測定し、導入を検討していく予定です。



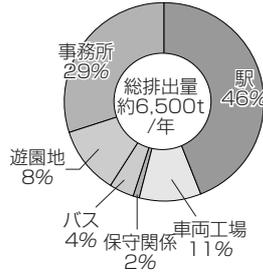
水なしトイレ（大同町駅）

2. 廃棄物の削減とリサイクルへの取り組み

廃棄物の現状

当事業所から排出される廃棄物は、概ね下の円グラフのようになります。今後もできる限り再使用、リサイクルに努めることはもちろん、使用そのものを減らしたり、再利用しやすい商品の購入をしたりしていきます。

なお、産業廃棄物については「廃棄物処理法」や「建設リサイクル法」等を遵守し、適正に処理しています。



廃棄物の削減

■駅における取り組み

当社の駅では、年間約3,000tの廃棄物が発生します。この廃棄物を適正に処理するために、「新聞・雑誌」「ピン・カン・ペットボトル」「その他のごみ」の3分別ができるリサイクルボックスを設置し、お客さまに分別回収へのご協力をいただいています。その結果、古紙、ピン・カン・ペットボトルは、90%以上をリサイクルの回収システムに乗せています。

また、駅で集札する乗車券は、種類別に選別して適切な場所保管、専用便で発送するなど、使用済み乗車券のリサイクルを円滑に、確実に進められるようなシステムを整えています。

■事務所内での取り組み

①紙使用の削減

紙使用量を削減するため、コピー紙などの両面使用、社内LANの活用（電子メール・電子掲示板・電子回覧・報告）に取り組んでいます。特に、本社内ではプリンターなどで両面使用がしやすいよう、サイズ別に専用ボックスを設置し、再使用促進を図っています。

②その他の取り組み

本社ビルでは平成11年2月からオフィス古紙リサイクルボックスを設置しています。また各フロアに廃棄物の分別ボックスを設置するとともに、定期的に廃棄物分別説明会を開催し部署単位で廃棄物の削減と資源の有効利用に取り組んでいます。



分別ボックス

■廃車と土木資材

平成16年度に当社では77両の鉄道車両を廃車し、そのうち36両を解体しました。解体に際して、車軸やパンタグラフ、電気関係部品など再使用可能なものと鉄屑など再資源化可能なもの、床材やシートなどの再資源化できないものとに分別し、リユースとリサイクルに取り組んでいます。なお、平成13年度末に導入した300系以降の車両では、設計段階からリサイクルのしやすさを考慮した素材を使用するなどしています。

□平成16年度 鉄道車両廃車一覧

廃車対象		77両
内 訳	解体済	36両
	売却	8両
	(未定)	33両

これまでに廃車した車両のうち、7000系車両（愛称：パノラマカー）3両は、沿線の中京競馬場（豊田市）に寄贈し、平成14年8月アミューズメントスポット「パノラマステーション」としてオープン、同競馬場のシンボリック存在として再び親しまれているものもあります。

また、平成16年度中発生したレールやトロリー線2,458tを鉄や銅の原料などとして売却しました。

なお、鉄道車両で使用した蛍光管の多くは専門会社によって水銀、ガラス、蛍光剤、アルミ等に分別し、適正にリサイクルしています。



車両解体風景



蛍光管のリサイクル(口金の取外し)作業

リサイクルの推進

■乗車券のリサイクル

地球環境対策が求められる中、特にゴミ減量のための再資源化、再商品化といった新たな法制化が進み、この社会的要請にいち早く対応するために、当社は平成7年から乗車券リサイクルの取り組みを関連会社の名鉄協商株式会社(本社・名古屋市)と協同で進めてきました。

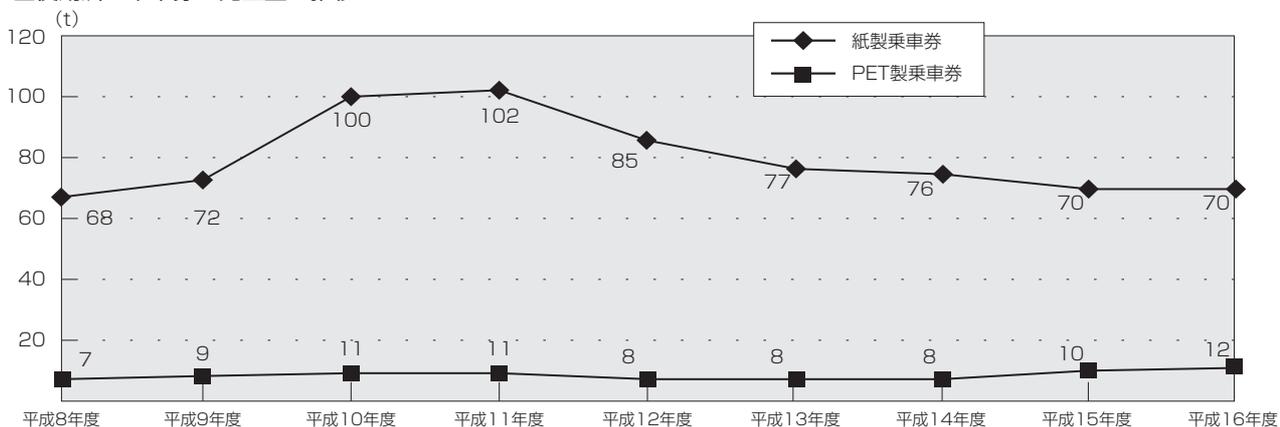
平成8年6月には乗車券リサイクルシステムの構築・稼働を開始しました。その結果、平成13年度には紙製乗車券(磁気券・紙券)の100%リサイクルを達成すると共に、これまでの活動が評価され「平成13年度リサイクル推進功労者等表彰」(主催:リサイクル推進協議会)において、国土交通大臣賞を受賞しています。

平成16年度からは、PET製乗車券の「サーマルリサイクル」を開始しました。これまで、産業廃棄物として単に焼却処分していた使用済みPET製乗車券を、セメント焼成のための熱源として有効活用するものです。これにより、使用済み乗車券のリサイクル処理率は、格段に向上しました。

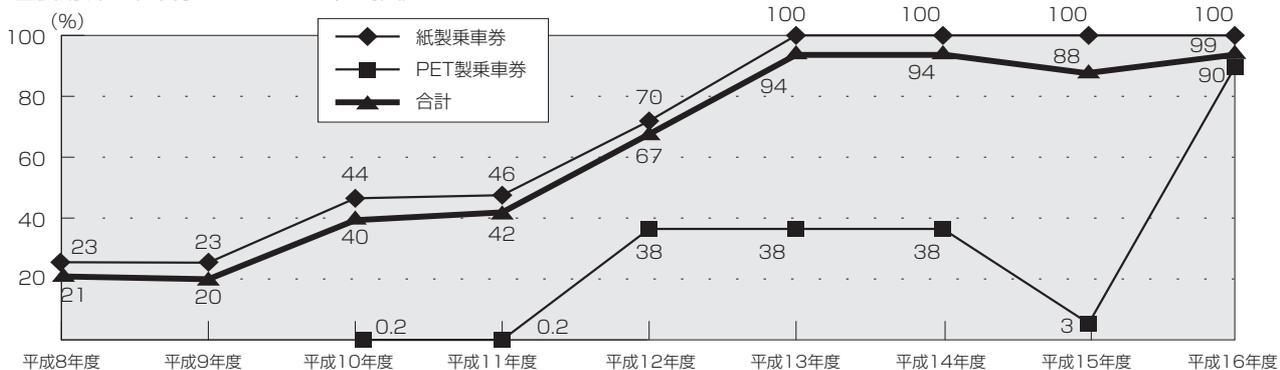
一方で、従来取り組んできた、乗車券リサイクルベンチなどのリサイクル品も、空港線開業に伴う駅施設整備の際に積極的に導入し、平成16年度までに、ベンチは全線で延べ約150台設置しました。

今後も、循環型社会構築へ可能な限り寄与できるよう、さまざまなリサイクル方法を活用しながら、積極的に乗車券リサイクルに取り組んでいきます。

□使用済み乗車券の発生量の推移



□使用済み乗車券のリサイクル率の推移



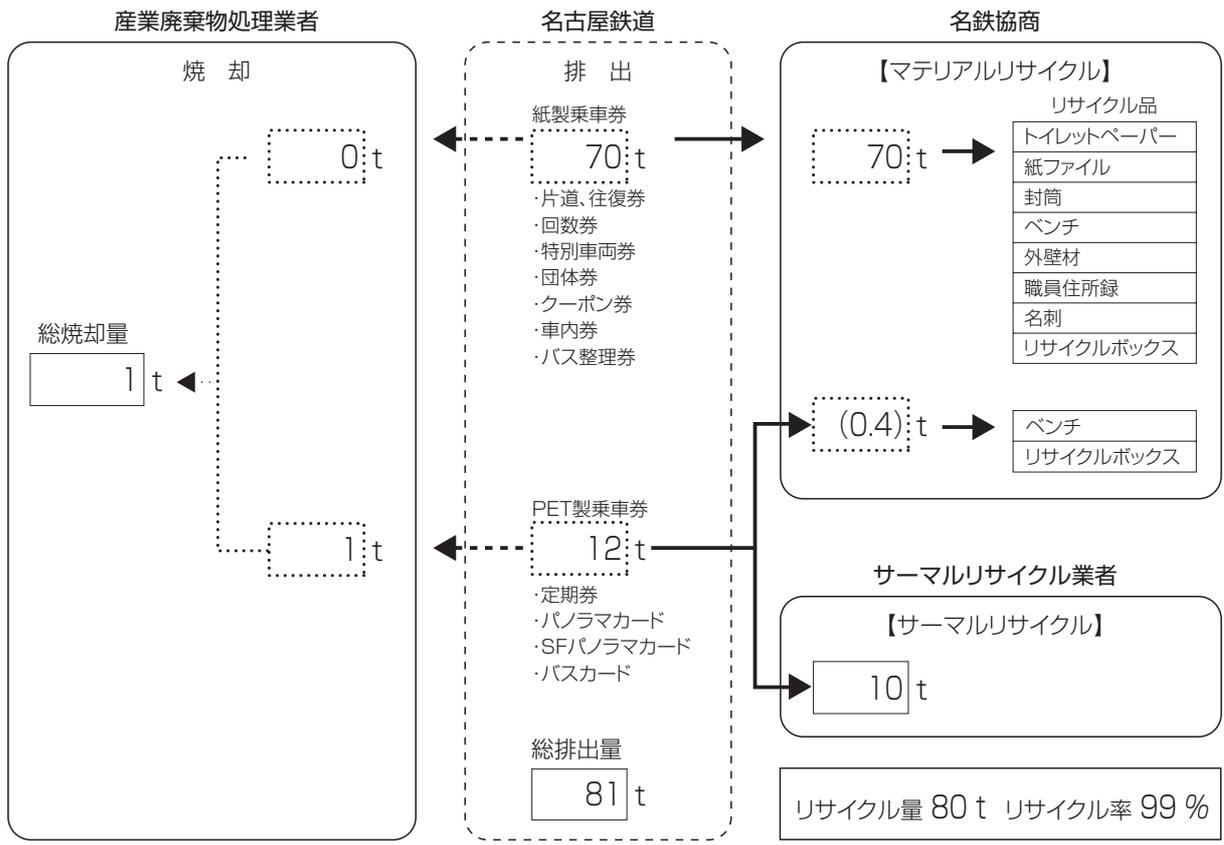
□主なリサイクル品の使用済み乗車券の配合率

	紙製乗車券	PET製乗車券	その他材料
封筒	40%	—	60%(古紙など)
紙ファイル	70%	—	30%(古紙)
トイレトペーパー	5%	—	95%(古紙)
名刺	10%	—	90%(古紙)
植木鉢	40%	—	60%(廃プラスチック)
ベンチ	25%	25%	50%(廃プラスチック)
リサイクルボックス	25%	25%	50%(廃プラスチック)

□乗車券などのリサイクル品



□名古屋鉄道の使用済み乗車券の流れ(平成16年度)



1t未満は四捨五入してあるため、合計が合わない場合があります。

PET:ポリエチレンテレフタレート

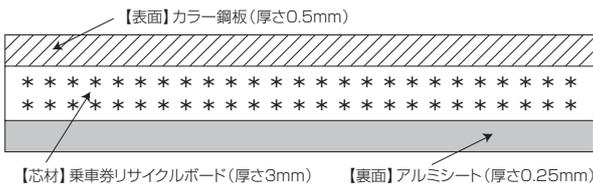
■新リサイクルボックス

平成15年8月から新タイプのリサイクルボックスを導入しています。ボックスパネルの芯材と内箱に、使用済みの定期券やバスカードなどのPET製乗車券を約4,230枚使用しています。



新リサイクルボックス(新川橋駅)

ボックスパネルの断面構造



■バス廃タイヤのリサイクル

平成16年度は名鉄バスの各営業所から約1,470本(約70t)の使用済みタイヤが発生しました。このうち、40%は路線バスのタイヤ(更正タイヤ)に、残りはセメント会社などで燃料として利用(サーマルリサイクル)しました。

また、瀬戸線など一部の鉄道線区では、使用済みタイヤをリサイクルした点字マットを設置しています。



リサイクル点字マット(新瀬戸駅)

グリーン購入の推進

当社では、環境に与える負荷が少ない商品を購入するグリーン購入*を進めています。現在、事務用品は当社乗車券からリサイクルされた製品のほか、エコマーク商品などを購入し、建設資材では土砂や砕石などで再生品の利用を進めています。

□平成16年度 事務用品におけるグリーン購入率(金額ベース)

	コピー用紙	コピー用紙以外の事務用品
全社平均	78%	60%

■リサイクル作業服

平成14年6月から、東海地区の鉄道事業者としては初となる「リサイクル作業服」を導入し、順次切り換えています。この作業服には、ペットボトルの再生生地を採用し、エコマーク商品の認定も受けています。また、少しでも環境に配慮した活動を広げたいという思いから、名鉄グループ各社でも同様の作業服を採用しています。今後は、他の制服等への導入も検討していきます。

導入会社

・名古屋鉄道 ・名鉄住商工業 ・メイエレック
・名鉄エージェンシー ・名鉄インプレス ほか



ペットボトル再生作業服

*名鉄住商工業は平成17年3月31日に解散を決議しております。

■グリーン購入方針の策定

当社では、グリーン購入法に基づき、グリーン購入の一層の促進を図るため、取り組みの指針となる「グリーン購入方針」を平成15年8月に策定しています。

名古屋鉄道グリーン購入方針

平成15年8月1日策定
名古屋鉄道株式会社

はじめに

名古屋鉄道では、環境対策に全社をあげて取り組むため、平成10年4月、環境対策への行動計画として「名鉄エコ・ビジョン」を策定し、これに沿ってさまざまな環境対策に継続的に取り組んでいます。これに基づき、当社においてさまざまな事業活動を行うにあたっては、環境に与える負荷が少なく、また環境に配慮された製品を優先的に購入すること(グリーン購入)を推進していくことが必要と考えます。ここに「名古屋鉄道グリーン購入方針」を定め、グリーン購入を推進するための基本的な考え方を示すとともに、環境の保全と向上のためにその推進を図っていくことを目指します。

1. 名称

本方針は、「名古屋鉄道グリーン購入方針」という。

2. 適用範囲

本方針は、当社が直接購入する製品について適用する。

3. 購入方針

製品を購入する際には、次の項目に留意して、できる限り環境負荷の少ない製品の購入に努める。

(1) 環境汚染物質の有無の確認

法令により規制されている物質を含む製品はもちろんのこと、地球

環境へ悪影響を及ぼす恐れのある物質を含む製品は購入しない。

(2) 省エネルギー製品の優先的購入

電力・石油などのエネルギー消費が従来よりも少ない製品を優先的に購入する。

(3) 長寿命製品の優先的購入

メンテナンスの容易性など、できる限り長期間使用できる工夫のされている製品を優先的に購入する。

(4) リユース・リサイクルの推進

リユース・リサイクルしやすい製品を優先的に購入し、かつ不用になった場合はリユース・リサイクルができるよう積極的に行動する。

(5) リサイクル製品の優先的購入

リサイクルされた製品を優先的に購入し、循環型社会の構築に努める。

(6) 廃棄の際に環境負荷の少ない製品の優先的購入

製品を廃棄する際に周辺環境に与える負荷が少ない製品を優先的に購入する。

(7) 環境に関する情報を入手しやすい製品の優先的購入

製品の製造方法やリサイクル・廃棄方法などの情報が容易に入手できる製品を優先的に購入する。

4. その他

この方針は、技術の進捗や法令改正など社会状況の変化に伴って、必要により改訂を行う。

以上

*P21の用語解説をご参照下さい。

3. 環境汚染物質削減への取り組み

当社ではより環境にやさしい企業活動を行うために、環境汚染物質の削減に取り組んでいます。

■オゾン層破壊物質

エアコンや冷蔵庫の冷媒などに使用されているフロン(特定フロン・指定フロン・ハロンなど)は、有害な紫外線から生命を守るオゾン層を破壊するといわれています。

当社では電車やバスの冷房、変電所の消火設備などにフロンを使用していますが、オゾン層を破壊しない代替フロン化、非フロン化を進めています。

また変電所の消火設備については、設置が必要な3変電所のうち1変電所(堀田変電所)でCO₂消火設備(変電所内は無入)に変更済みです。今後、他の2カ所のハロン消火器は更新時にCO₂消火設備に変更していきます。

□代替フロンの使用車両実績

	平成16年度
鉄 道	1,155両中 114両 (導入率9.9%)
バ ス	825両中704両 (導入率85.3%)

■PCB

当社では、過去に使用していたPCB(ポリ塩化ビフェニル)を含んだコンデンサーなどの機器を法律に基づき漏洩のないよう保管しています。

平成17年度中に愛知県内で、PCB廃棄物処理施設が稼働することとなり、今後計画的に無害化処理を進めていきます。

■ダイオキシン類

ダイオキシンとは、焼却炉で塩素を含んだ物質を燃焼させたときに発生する化学物質です。このダイオキシンは、たとえ少量であっても人体に重大な影響があるといわれているため、当社では駅などで使用していた小型の簡易焼却炉を平成11年4月に使用停止しました。

4. 沿線環境保全への取り組み

当社では列車の走行時や保守作業時に発生する騒音の低減対策として、下記の取り組みを行っています。

■騒音の低減策

電車がカーブを曲がる時に発生する「キーキー」というきしり音を低減するため、防音車輪を使用しています。平成16年度末までに27%の車両に防音車輪を使用し、特急特別車とカーブの多い瀬戸線の車両には、さらに防音効果の高い車輪を使用しています。また、滑走防止装置ABS(アンチスキッドブレーキシステム)を34%の車両に導入しており、ブレーキ時に車輪が滑走することにより偏って摩耗しないようにし、かつ、転動音が大きくなるようにしています。

さらに、ロングレール化*、レールの重量化、PCマクラギ化、車両の軽量化などにより騒音の低減に努めていますが、今後もさまざまな研究をすすめ、騒音対策に取り組んでいきます。

□軌道の騒音低減策

	本線軌道長	実施長	実施率
ロングレール化	321.3km (ロングレール化可能長)	220.2km	69%
レールの重量化 ※50kgレール以上	779.8km	756.3km	97%
PCマクラギ化	779.8km	456.5km	59%

(平成16年度末現在)

■保守作業時の騒音対策

防音型の保線機械の導入や作業効率の向上により、保守作業時の騒音低減に取り組んでいます。



防音型マルチフルタインバー

*P21の用語解説をご参照下さい。

Ⅲ.社会的環境活動へのアクション

1. 環境コミュニケーション

■環境報告書

当社では平成12年6月に初めて環境報告書を発行しました。その後毎年発行を重ね、今回で6回目となります。報告書は、従業員やグループ会社へ配布すると共に関係自治体等へ配布しています。また、この報告書はインターネットの当社ホームページにも掲載し、広く皆さまに当社の環境活動をご理解いただけるように努めています。今後はIR(投資家向け広報)に配慮するとともに、CSR(企業の社会的責任)をより意識した報告内容とするよう努めていきます。



平成15年度 環境報告書

□環境報告書が名鉄ホームページでご覧になれます。

URL:<http://www.meitetsu.co.jp/meitetsu/eco/>
(名鉄ホームページ→企業情報→環境活動について)

■環境広報

テレビCMやポスター、広報誌などを通じて皆さまに当社の環境活動へのご理解とご協力をいただけるよう努めています。またお客さまにモニターとしてご意見をいただく「名鉄電車・バスモニターアンケート」や電子メール等でも、お客さまから当社の環境に対する取り組みについて、多数ご意見をお寄せいただいております。

今後このような貴重なご意見を反映させながら、一層環境活動に取り組んでいきます。



環境活動PRポスター

■環境ビデオ

当社の環境活動をよりわかりやすく表現するために、環境ビデオを作成しました。このビデオは従業員教育で使用するほか、関係自治体等へ配布し、当社の環境活動への取り組みを理解していただけるように努めています。

■環境イベント(開催)

自然と親しみ、関心を持っていただくことで多くの皆さまに自然保護や環境の大切さを感じ取っていただくことは、大変意義深いことだと考えます。日本モンキーパーク(犬山市)・南知多ビーチランド(愛知県美浜町)では、体験型の環境イベントを開催しています。平成16年度は2園で約17,000名の方々にご参加いただきました。



環境イベント(南知多ビーチランド)

□平成16年度 日本モンキーパークで開催された主な環境イベント

環境イベント名		参加人数
モンキー 森の 学校	「観察」食べるのみちやお 等	約1,400名
	「飼育」サルの赤ちゃんをさがそう 等	約800名
	「栽培」どんぐり苗植え会 等	約240名
	「実験」光合成ペンダントをつくろう	約150名
	「ものづくり」森の工作室	約1,320名
	「体験」モンキーレンジャー 等	約840名
小 計		約4,750名
学芸員によるレクチャー		約6,670名

□平成16年度 南知多ビーチランドで開催された主な環境イベント

環境イベント名	開催回数	参加人数
海の学習講座	34回	約1,670名
バックヤードツアー	17回	約3,250名
地引き網体験	13回	約3,280名
イルカとのふれあい	4回	約1,370名
サカナの解剖	3回	約240名

■環境イベント(参加)

当社は平成17年6月に開催された「中部環境展」(主催:環境省)に参加しました。乗車券などのリサイクル品や環境ポスターの展示、環境報告書の配布などを行って、当社の環境への取り組みを紹介し、地域の皆さまと環境について考えました。

今後も地域の皆さまと環境について考えるイベントに積極的に参加していきます。

2. 自然環境保護

■森林整備

当社では、国内に約4,000ha(東京ドーム約850個分)の森林を保有しています。森林には二酸化炭素の吸収や景観維持、災害防止等の役割があります。

当社では、国内に点在する森林を、自治体や森林組合等と協力しながら、森林本来の機能を維持するために管理を行っています。



間伐作業

■里山保全

知多半島の南部、愛知県美浜町に約18haの里山を保有しています。当社ではこの里山を美浜町に提供し、町が進めている「里山保全事業」に協力しています。

平成12年12月から毎年美浜町が実施している自然観察会には、地元の方々も多くご参加され、里山のよさを身をもって感じていただいています。

今後も、里山を通じて「環境にやさしい」地域づくりに協力していきます。



里山ハイキング

用語解説

■ISO14001 (P4)

組織が環境活動を行うにあたり、継続的な改善が行えるよう、国際標準化機構 (ISO) が作成した環境マネジメントの国際規格です。

■PRTR法「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」(P4・7)

有害化学物質による汚染を防止するために、企業などがこの物質を環境中にどれだけ排出したかを把握し、その情報を行政が管理・公開する仕組みです。

■回生ブレーキ (P9)

電力の効率的利用、省エネルギーを目的として開発されたブレーキです。ブレーキ時に主電動機(モーター)を発電機として作用させ、発生する電力を架線に戻します。この電力は他の電車で使用するか、変電所に返されています。

■純電気ブレーキ (P9)

このブレーキ制御を搭載した電車は電気ブレーキのみで減速し、停止直前までブレーキシューを車輪に押し付けません。このため、より有効に回生電力を得られ、さらにブレーキシューの消費量を削減できます。

■ステンレス車体 (P9)

鉄製車体に比べ、約30%の軽量化ができます。また、ほとんど塗装を施さないため、塗料の使用量が削減できます。

■力率改善コンデンサー (P10)

電力会社から購入した交流電力を変電所内で無駄なく利用するために、設備に流れる電気のうちで、どれだけ部分が仕事をしたかという割合を示す力率を改善させるものです。

■き電線 (P10)

変電所から電車に電気を送るための電線です。

■デジタルタコグラフ (P11)

主に自動車において、運転速度や運転時間、アイドリングの状況などのデータを記録します。コンピュータによる詳細なデータ分析が可能で、経済運転はもとより環境配慮にも役立ちます。

■グリーン購入 (P18)

商品やサービスを購入する際に、価格や品質だけでなく、環境負荷ができるだけ少ないものを優先的に購入することをいいます。

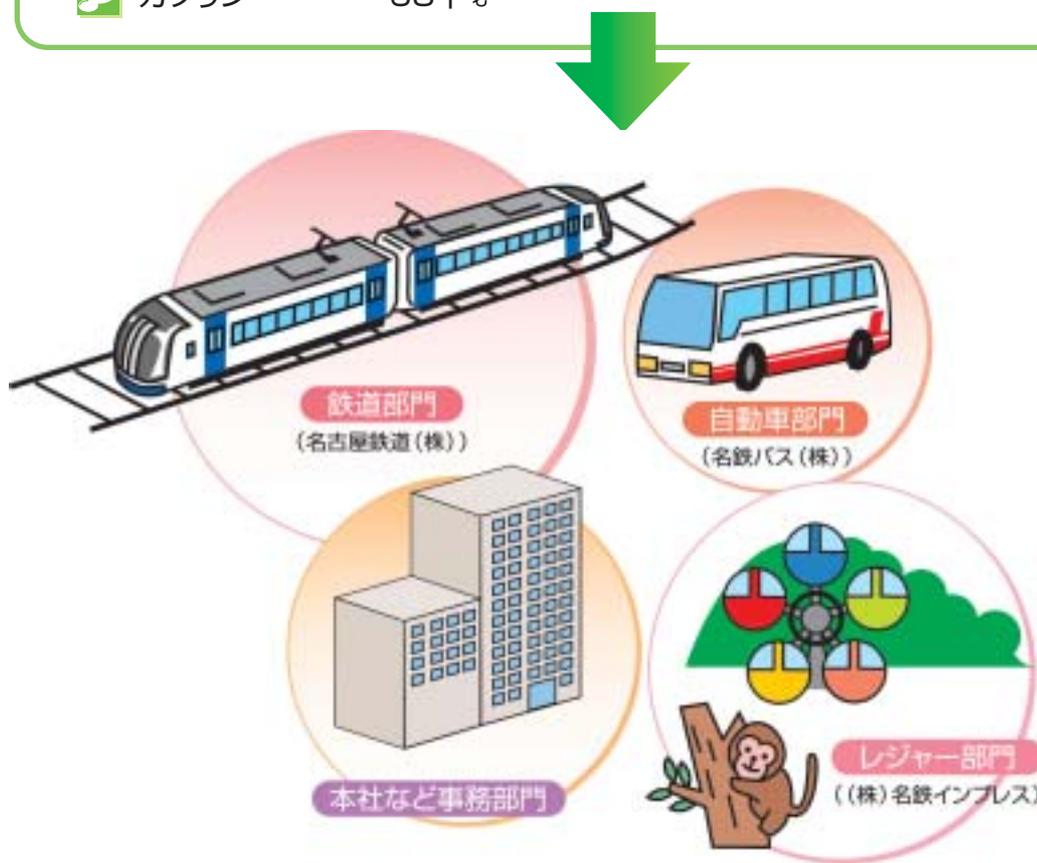
■ロングレール (P19)

気温の変化によるレールの伸縮に対応するため、レールには通常25mおきに継目があります。しかし、この継目は列車通過時の騒音や振動の原因となります。これらの発生を抑制するために、継目を溶接してつなぎ、200m以上にして使用しています。

環境負荷データ (平成16年度)

INPUT

 電気 …………… 489百万kWh	 灯油 …………… 190千ℓ
 都市ガス …………… 253千m ³	 軽油 …………… 15,938千ℓ
 プロパンガス …… 60千m ³	 水 …………… 929千m ³
 A重油 …………… 511千ℓ	 紙 …………… 9,142千枚 (A4換算)
 ガソリン …………… 68千ℓ	



 CO₂ : 231千t-CO₂

 一般廃棄物 …… 5,657t	【うちリサイクル量 …… 3,171t (56%)】
 産業廃棄物 …… 696t	【うちリサイクル量 …… 461t (66%)】
 乗車券類 …… 81t	【うちリサイクル量 …… 80t (99%)】
 バス廃タイヤ …… 70t	【うちリサイクル量 …… 70t (100%)】

OUTPUT

※二酸化炭素排出量は、事業活動において使用したエネルギー(電力、ガス、軽油など)を環境省「温室効果ガス排出量算定に関する検討結果(平成14年8月)」における排出係数を使用し、算出。(参考:電力百万kWhあたりの二酸化炭素排出量は、378t-CO₂)

名鉄グループの環境活動

名鉄グループ各社では、運輸・流通・レジャー・不動産・情報など事業分野が多岐にわたっていますが、いずれも地域の皆さまの生活文化に密着したサービスを提供いたしております。各社は、お客さまのニーズに即応した高品質な商品やサービスの提供を行うとともに、環境に対する取り組みも積極的に展開しています。

■環境ビジネス部会の活動

当社の環境活動推進組織「アクション・エコ推進委員会」の専門部会の一つとして、環境に関するグループ各社での情報交換と、グループ力を生かした環境ビジネスの企画立案や実施を目的として、グループ会社で組織する「環境ビジネス部会」を定期的に開催しています。

部会では、各社の環境活動や環境ビジネスに関する情報交換のほか、視察会等を開催しています。



環境ビジネス部会

■名駅をきれいにする名鉄グループの会

平成15年9月、当社のほか、名鉄名古屋駅周辺（通称：名^{めい}駅）に事務所を構えるグループ各社有志で、「名駅をきれいにする名鉄グループの会」を結成し、名駅地区の清掃ボランティア活動を開始し、継続して活動しています。

当会は、名古屋市の「ポイ捨て条例」に基づく「クリーンパートナー制度」のモデルに認定され、市の協力を得ながら、定期的に環境美化活動を行っています。



「名駅をきれいにする名鉄グループの会」活動の様子

■グリーン経営認証

グリーン経営とは、自主的・継続的に環境対策を進めながら、環境保全と経営向上の両方を目指した企業経営のあり方のことです。京都議定書が発効し、地球温暖化対策が急務である昨今、日本の二酸化炭素排出量の2割を占める運輸業界においても、何らかの対策が社会的に求められています。

交通エコロジー・モビリティ財団（通称：交通エコモ財団）は、運輸事業における温暖化対策を推進するために、財団独自の「グリーン経営推進マニュアル」に基づいて、一定レベル以上の取り組みを行っている事業者を、比較的低費用で認証する「グリーン経営認証」を、トラック事業では平成15年10月から、タク



グリーン経営認証マーク

シー・バス事業では平成16年4月より開始しました。当社グループにおいても、トラック・バス・タクシーといった運輸事業を全国各地で展開しており、重要な一角を担っています。これまでも、各社それぞれにおいて環境への取り組みの重要性を認識し、地道に活動してきましたが、この認証を取得することによって、お客さまをはじめ、事業にかかわる多くの方々へその取り組みを認識いただくとともに、さらに効果的に活動できるよう、この「グリーン経営認証」の取得を進めています。

□「グリーン経営認証」取得会社（平成17年7月現在）

・トラック	
東北名鉄運輸	名鉄ゴールデン航空
新潟名鉄	四国名鉄運輸
・タクシー	
名鉄交通	名鉄名古屋タクシー
愛電交通	浜松名鉄タクシー
名鉄東部交通	名鉄知多タクシー
・バス	
名古屋観光日急	

【ISO14001との違い】

ISO14001は、環境改善の体制や書類の整備といったマネジメントシステムの適合性を審査するものですが、グリーン経営認証制度は、環境改善の取り組み結果（環境パフォーマンス）を審査するものです。

さらに、認証後のレベルアップのため、指導や助言も実施します。（ISOでは禁止されています）

出典：交通エコモ財団「グリーン経営認証広報パンフレット」

■ISO14001の認証取得状況

環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、環境負荷軽減を推進しているのは、次の各社です。

(平成17年7月現在)

会社名	取得年月	審査登録機関
名古屋鉄道(舞木検査場)	平成12年6月	(財)鉄道総合技術研究所
矢作建設工業	平成12年8月	(財)建材試験センター
メイエレック	平成13年6月	JQA
名鉄エージェンシー	平成13年9月	JQA
サニクリーン名古屋	平成14年3月	KHK
山梨名鉄運送	平成14年4月	JACO
名鉄ビルディング管理	平成14年6月	(財)東海技術センター
名鉄百貨店	平成14年8月	JQA
名鉄運輸	平成14年9月	JQA
名鉄協商	平成15年2月	(財)東海技術センター
名鉄クリーニング	平成15年3月	KHK
奥飛観光開発	平成17年3月	(財)日本ガス機器検査協会

※JQA:(財)日本品質保証機構
 KHK:高圧ガス保安協会
 JACO:(株)日本環境認証機構

名鉄グループの概要

連結会社数 ・連結子会社 186社
 ・持分法適用会社 22社

従業員数 37,491人

売上高 790,828百万円
 (平成17年3月期)



■各社の取り組みの具体例

●名鉄運輸株式会社

社内で「環境管理委員会」を発足させ、トラックのエコドライブを推奨するとともに、天然ガス自動車などの低公害車両の導入を毎年着実にすすめています。



低公害車両

【お問合せ】総務部 052-935-5721

●株式会社名鉄百貨店

本店、一宮店にごみ計量器を導入しました。計量により、①フロア別のごみ総量の把握②ごみ分別の徹底③ごみとなる廃棄物の持込抑制など、廃棄物の減量化とリサイクル率向上といった効果に結びついています。また、食品リサイクル法に関わる生ごみ総量のリサイクル化20%以上という目標の達成にもつながっています。



ごみ計量器(本店・一宮店に設置)

【お問合せ】環境サービス部 052-585-2470

●株式会社名鉄エージェンシー

環境をテーマにしたコミュニケーション商品を積極的に企画開発し、クライアントへ継続的に提案していくとともに、印刷制作物やイベント施工部材のグリーン調達、イベント実施における環境対応を推進しています。



細かく分けられた本社の分別ステーション

【お問合せ】総務部 052-582-4102

●矢作建設工業株式会社

瀬戸地区の廃珪砂を活用したKLBやクールベープを開発、舗装施工に活用しています。保水性舗装の打ち水効果によりヒートアイランド現象の軽減に役立ちます。



KLB(キラロッキングブロック)を活用した舗装

【お問合せ】土木技術部 052-935-2389

●名鉄協商株式会社

使用済み紙製乗車券およびPETカードを中心とした独自の回収システムと、それらを材料としたリサイクル製品の企画から製造までを、全国の鉄道会社を中心に提案、採用いただいています。



乗車券をリサイクルした「リキップベンチ」

【お問合せ】リサイクル・包材事業部 052-582-1094

●名鉄ビルディング管理株式会社

環境保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に全従業員あげて取り組むため、平成14年6月にISO14001の認証を取得し、ビル管理業務を通じた環境負荷軽減の取り組みを進めています。



お客さまには「エコユニット(電力削減装置)」の導入をご提案

【お問合せ】総務部 052-551-0710

●株式会社サニクリーン名古屋

「さわやかな環境作り」をテーマに、ダストコントロール商品や、環境衛生商品のレンタルおよびトナーリサイクルシステムの普及を通じて、地域社会に貢献する企業をめざし、未来を展望する業界のパイオニアとして積極的に活動します。



本社玄関で環境推進をPR

【お問合せ】管理部 052-501-7070

●山梨名鉄運送株式会社

重点施策としてトラックの燃費向上の目標を設定し取り組んでいます。毎月実施している安全会議で「社外美化運動」が提案され、社外の清掃を実施しました。これからも全従業員が共通の認識を持って環境負荷の軽減に取り組んでいきます。



美化活動に取り組む同社の従業員

【お問合せ】総務部 055-273-7911

●奥飛観光開発株式会社

観光ロープウェイとしては日本で初めてISO14001の認証を取得しました。取得を機に、さらに環境保全活動を推進し、新穂高地区の自然と地球環境全体にやさしい社会づくりに貢献していきたいと考えています。



鍋平高原に植樹を行う同社の従業員

【お問合せ】自然環境部 0578-9-2254

●株式会社名鉄クリーニング

平成15年3月にISO14001の認証を取得し、現在2004年版の要求事項に対応するため、全従業員が共通の認識を持って、環境負荷軽減に取り組んでいます。



新しく導入した天然ガス集配車

【お問合せ】総務部 052-501-5511

●株式会社メイエレクトク

統合マネジメントシステム(品質・環境・労働安全衛生)の一環とした環境対策として、事務部門の取り組み(省資源・省エネ)と工事・保守部門の取り組み(3Rと建設廃棄物の適正処理)を実施し、環境負荷低減を推進しています。



産業廃棄物保管基準に準じた残廃材一時保管場所

【お問合せ】マネジメント監理部 052-678-1687

●東北名鉄運輸株式会社

グリーン経営認証を取得した青森支店では、4つの部会(エネルギー節約・クリーンエネルギー、省資源・リサイクル、産業廃棄物管理・削減、グリーン経営推進)をつくり、定期的に進捗状況の意見交換を行って、「燃費の削減」「ゴミの削減」等、一つひとつ改善に向けた取り組みを進めています。



毎月1回の部会で取り組みの進捗状況を確認

【お問合せ】営業部 019-637-1040

●名鉄交通株式会社

燃費を改善するエコドライブに全社を挙げて取り組み、平成16年12月にグリーン経営認証を取得しました。より温暖化防止に貢献するため、顕彰制度による意識向上や、アイドリングストップ自動車5両を試験導入する等の研究を行っています。



タクシー車内で取り組みをPR

【お問合せ】総務部 052-331-2221

●名古屋観光日急株式会社

平成16年12月に、大手貸切バス事業者としては全国で初めてグリーン経営認証を取得しました。今後も、エコドライブの一層の推進と社員の意識改革に力を入れ、一段階レベルアップした環境保全活動をめざしてまいります。



バスに認証ステッカーを貼って取り組みをPR

【お問合せ】経営管理部 052-586-2221



愛・地球博における取り組み

名鉄グループは、2005年日本国際博覧会（愛・地球博）の成功に向け、運営・輸送・イベント等多岐にわたり、総力を挙げて協力をしました。愛・地球博のメインテーマである「環境」を具現化するため、主に次の二つの取り組みを行っています。

■HSSTの実用化

当社と愛知県が中心となって設立した中部HSST開発（株）が長年開発を進めてきたHSST（常電導磁気浮上システム）が、愛・地球博の開催を機に開業した「東部丘陵線」において、実用化されることとなりました。

このシステムは、電磁石の吸引力の働きでレールから浮上して走るため、車輪やレールの接触により生ずる騒音や振動がなく、快適な乗り心地と公害問題の解決を図っています。



実験走行中の100L型

□HSSTの仕組み

車体に取り付けられた電磁石に電流が流れると、レールに向かって吸引力が生まれ、車体が浮上。電磁石とレールとの間隔は、ギャップセンサーにより、常に一定の間隔を保つよう制御します。

また、左右のスレに対しては、レール（ \cap 字型）と電磁石（ U 字型）との間の吸引力がそのスレを直す方向に働く力を利用しています。

また、車両はリニアモーターで推進。リニアモーターとは、普通の回転モーターを平たく伸ばしたもので、普通のモーターが回転する力として使われるのに対し、リニアモーターはそれを直進する力として活用します。



○HSSTの主な特徴

- ・浮上して走行するため、騒音や振動が少なく、沿線環境に優しく、かつ乗り心地も快適。
- ・浮上走行のため、降雨等の影響を受けにくい。
- ・リニアモーターの強力な推進力により、急勾配・急カーブもスムーズに走行が可能。
- ・磨耗部分がなく、車両やレールなどの保守費用が低減できる。
- ・走行台車（モジュール）がレールを抱え込む構造のため、脱線・転覆などの事故が起こる心配がない。
- ・車体の軽量化と構造物のスリム化で、軌道の建設コストを抑制できる。

■Linimo（東部丘陵線）

愛・地球博のアクセスルートの一つとして、東部丘陵線（愛称Linimo リニモ）が、平成17年3月開業しました。同線開業により、HSSTの技術を活用した、初の本格的な営業運転の実現となりました。

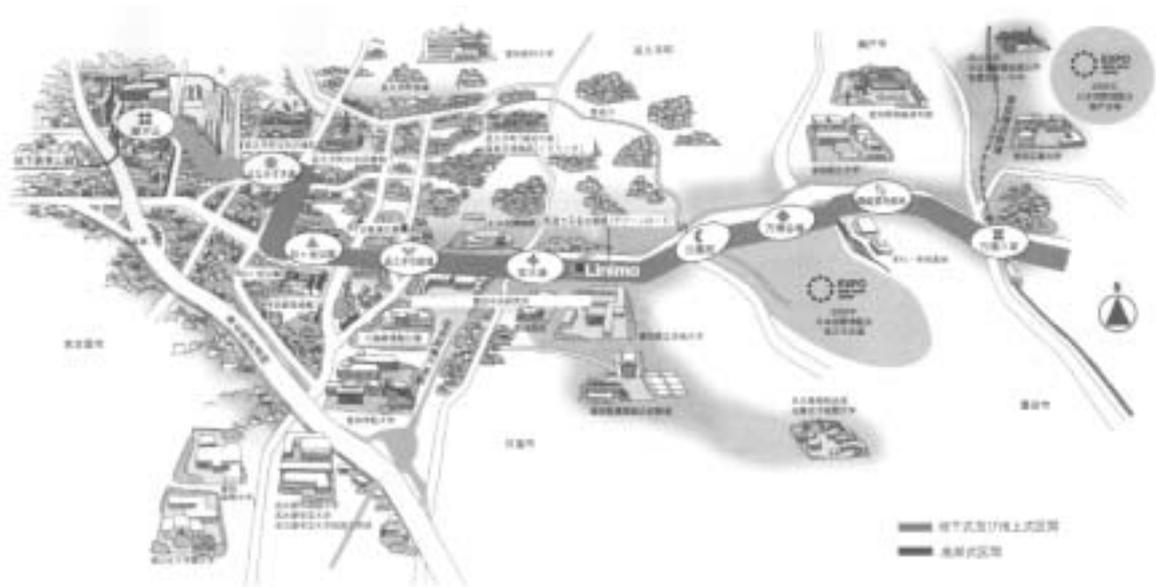


東部丘陵線を走行中のリニモ

□東部丘陵線の概要

区間	名古屋市名東区藤が丘～豊田市八草町
営業キロ	8.9キロ
駅数	9駅（藤が丘～万博八草間 約17分）
最高速度	時速約100キロ

■東部丘陵線 路線図



■人と自然が織りなす日本の風景百選

(愛・地球博パートナーシップ事業 民間企業環境部門第1号)

日本人は元来、自然から恵みを受け、自然と共に生きてきました。名鉄と名鉄グループでは、「愛・地球博」支援事業の一環として、博覧会のテーマ「自然の叡智」を正面からとらえ、人の営みが自然と共に創り出した素晴らしい風景を選ぶ「人と自然が織りなす日本の風景百選」に取り組んできました。

本年1月には、日本全国で103カ所の選定地と風景写真を選考し発表するとともに、博覧会閉幕日の9月25日には瀬戸会場市民パビリオンにて記念フォーラムを開催し、日本の風土に根ざした風景を後世に伝え、人が自然と共に生きていくための知恵やメッセージを発信しました。

今後、フォーラムの内容や選定地の紹介を盛り込んだ記念誌の出版を予定しています。

□風景百選の一例(優秀作品)



霞ヶ浦の帆引き舟



丹後伊根町の舟屋のある風景



輪島市白米の千枚田

□百選選考委員

市川 健夫氏

(東京学芸大名誉教授)

飯田 喜四郎氏

(博物館明治村館長・名古屋大名誉教授)

只木 良也氏

(名古屋大名誉教授・ブレイク研究所生態研究センター長)

前田 惠學氏

(速念寺和上・愛知学院大名誉教授)

水谷 研治氏

(エコノミスト・中京大大学院教授)



選考風景

□主な選定地

選定地	都道府県
道東根釧台地の防風林(中標津町)	北海道
霞ヶ浦の帆引き舟	茨城
砺波平野の散居村(砺波市)	富山
日本の三大美林・木曾檜林	長野
白川郷・越中五箇山の合掌造り民家	岐阜・富山
伊勢神宮と宮域林	三重
丹後伊根町の舟屋のある風景	京都
讃岐平野の溜池灌漑(満農池)と条里制遺溝水田	香川
福岡県央・朝倉町の三連水車	福岡
八重山諸島・竹富島の民家	沖縄

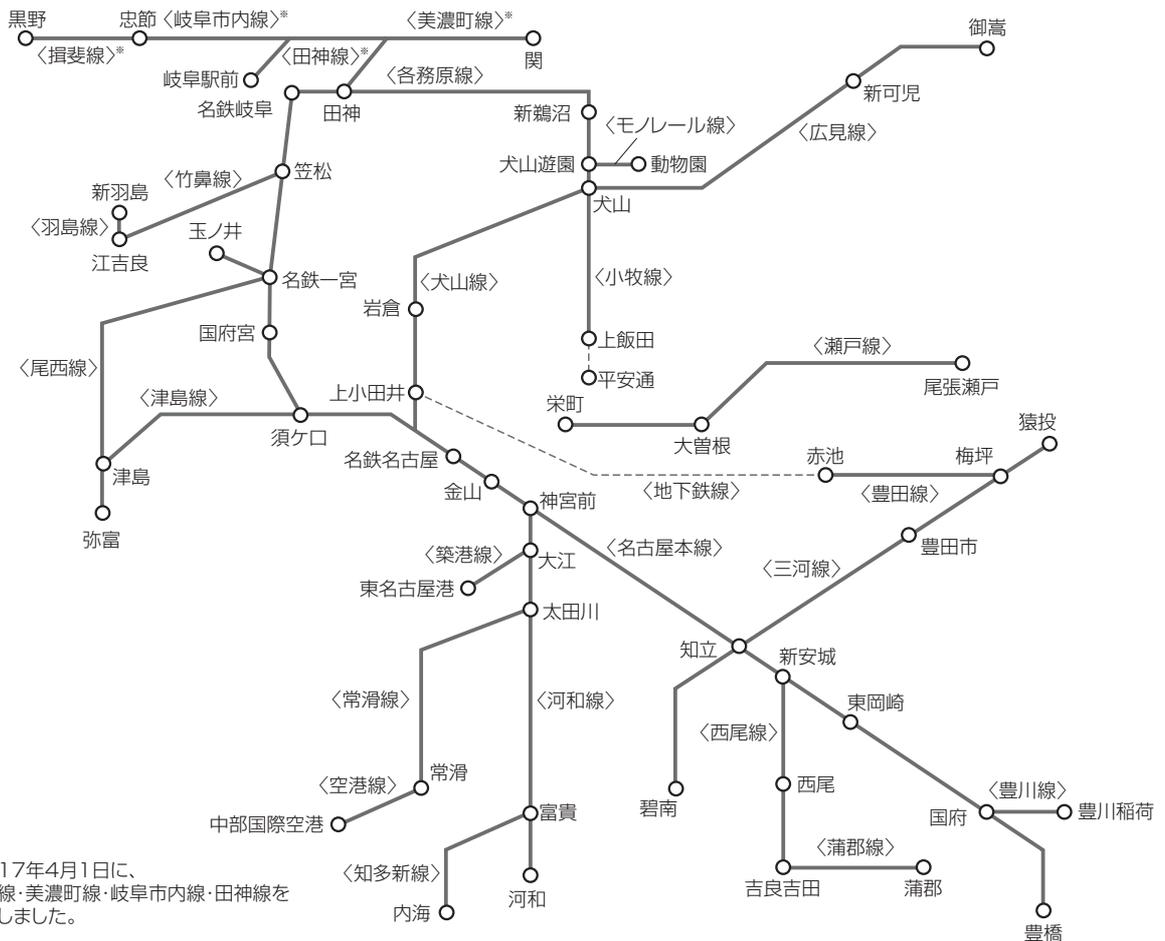


「愛・地球博」長久手会場「愛・地球広場」の大型画面にて入選写真セレクション映像を上映

環境への取り組みの沿革

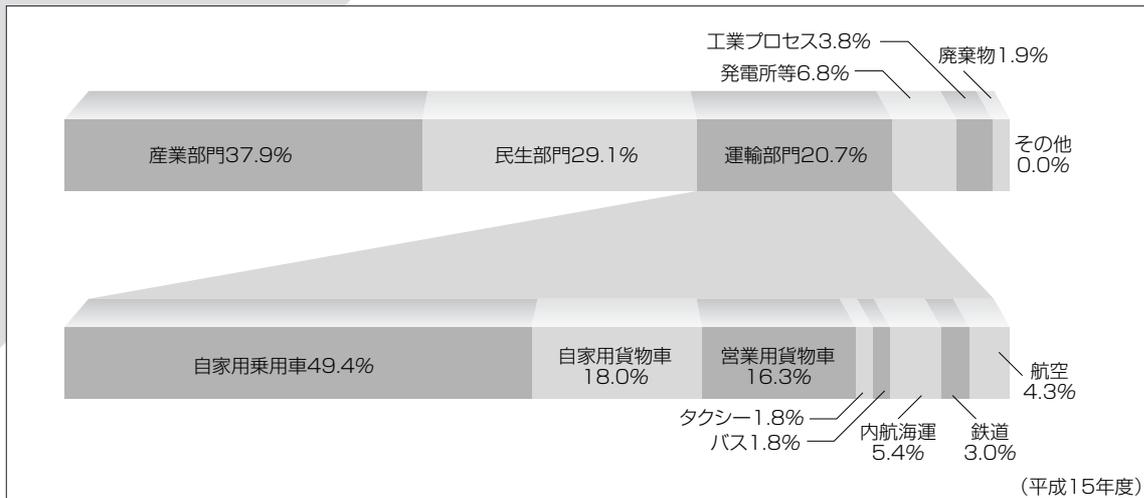
平成7年	乗車券リサイクルの取り組みを開始		
平成8年	名鉄協商(株)と乗車券リサイクルシステムを構築		
平成10年	「名鉄エコ・ビジョン」策定 アクション・エコ推進委員会を設置 第1回アクション・エコ推進会議開催	平成13年	小幡駅(瀬戸線)にて「コミュニケーション」開始 名鉄環境ビデオを製作 紙製乗車券の100%リサイクルシステム完成 環境モデル路線・モデル駅を制定 「平成13年度リサイクル推進功労者等表彰」において国土交通大臣賞受賞 環境会計を初めて公表
平成11年	第1回環境講演会開催 従来の節約運動を「エコ・キャンペーン」と改称(以後、毎年夏・冬の全2回実施)	平成14年	新・省エネ車両300系導入(純電気ブレーキ・ステンレス車体の採用) 瀬戸線に節水システム導入 リサイクル作業服の本格導入
平成12年	舞木検査場にてISO14001認証取得 環境報告書を発行 新・省エネ車両モ800形導入(平成13年、鉄道友の会よりローレル賞受賞) PETリサイクル素材制服の試験導入 リサイクルベンチの試験設置(名鉄名古屋駅) 名鉄長住町ビル・名鉄新一宮ビル完成(雨水利用システム・コジェネレーションシステムの導入)	平成15年	水なしトイレの試験導入(大同町駅) 新リサイクルボックス(乗車券リサイクル品)の導入
		平成16年	環境監査を開始 PET製乗車券のサーマルリサイクルを開始

路線図(平成17年3月31日現在)

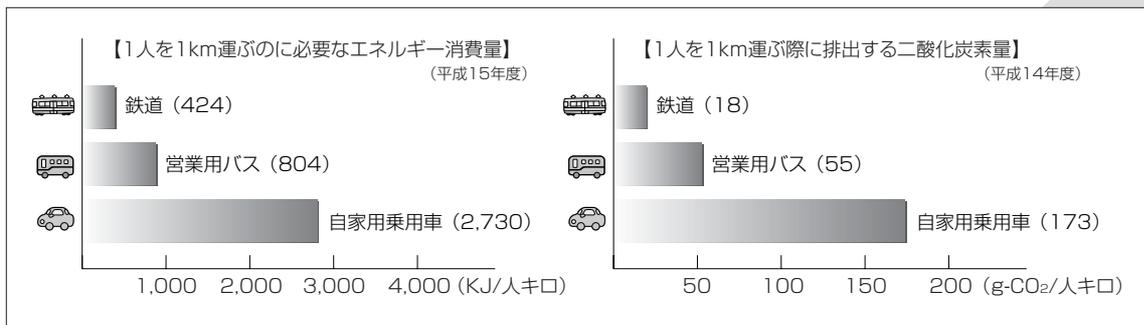


○鉄道は「環境にやさしい」移動手段です

下のグラフは、国内の二酸化炭素排出割合を、部門別に見たものです。運輸部門は、国内で約2割を占めていますが、そのほぼ半分はマイカーによるものです。一方、鉄道はわずか3.0%にすぎません。



さらに、1人を1km運ぶのに必要なエネルギー消費量で比較すると、鉄道は一度に多くのお客さまを運べるため、マイカーと比べると約1/6であり、エネルギー効率の大変よい移動手段といえます。二酸化炭素の排出量で比較してみても、鉄道はマイカーの約1/10となり、まさに鉄道が環境にやさしいといわれる理由です。当社では、この「鉄道の環境優位性」を広くPRするとともに、より多くのお客さまにご利用いただけるよう、効率的で利便性の高い公共交通サービスを提供し、環境負荷軽減へ貢献するべく努めてまいります。



※グラフは、環境省、国土交通省発表資料をもとに作成。

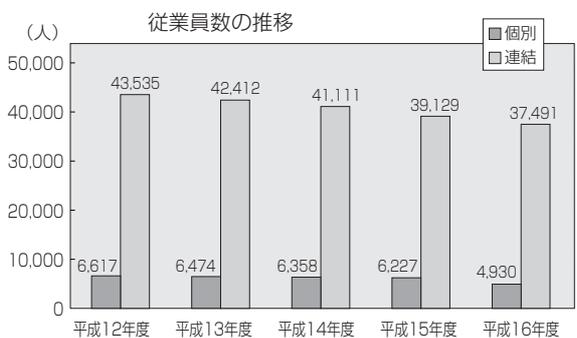
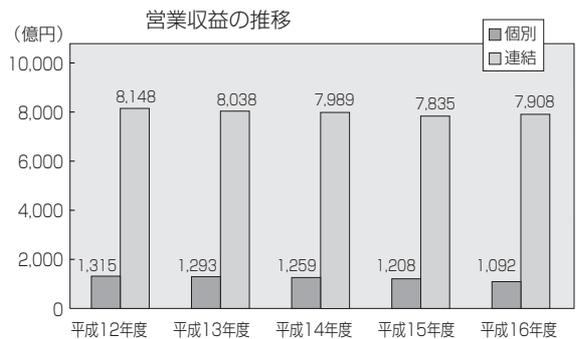


名鉄は、国土交通省「鉄道でエコ キャンペーン」に協賛しています。
URL : <http://www.mintetsu.or.jp/eco>

会社概要

社名	名古屋鉄道株式会社 Nagoya Railroad Co.,Ltd.
創業	明治27年(1894年)6月25日
設立	大正10年(1921年)6月13日
本社	名古屋市中村区名駅一丁目2番4号
資本金	747億1,230万円(平成17年3月31日現在)
年間収入	1,092億6,500万円(平成17年3月期)
事業内容	(平成17年3月31日現在)

- 鉄軌道事業(営業キロ数:482.0キロ、旅客駅数:322カ所)
- 土地建物事業(土地の分譲、土地建物の賃借)
- その他事業(観光業、旅行業、航空代理業)



編集後記

21世紀は「環境の世紀」といわれて久しいですが、当地・名古屋で、「環境万博」の呼び声の高い愛・地球博が開催されたことは、弊社はもちろん、当地域における環境保全への取り組みを、大きく前進させるきっかけとなるものでありました。この追い風を生かし、環境にやさしい鉄道事業を通して、地域社会に、そして地球環境に微力ながらも貢献してまいりたいと思います。

中京圏は、日常の移動手段におけるマイカーの利用割合が他の都市圏に比べ非常に高いため、鉄道など公共交通への転換など、その割合を改善することで、環境負荷軽減が大いに期待できます。そのためには、エネルギー効率のよい「環境にやさしい鉄道」が、その特性をフルに生かせるよう、事業者としてもっと努力する必要があると認識しております。本年10月より、国土交通省が主体となって展開する「鉄道でエコ キャンペーン」と協調しながら、鉄道の環境優位性を広くPRし、鉄道を通じて、環境にやさしいライフスタイルの提案をしていきたいと考えています。

当社の環境対策は、決して無理せず、日々着実に進めてまいりました。しかし、京都議定書の発効や環境に関する新たな規制の制定など、環境対策における世の中のスピードはにわかに加速していると痛感しております。そういった世の中の流れの中でも、当社ももとより、名鉄グループとして、確実に環境面での期待や責任を果たしていかななくてはなりません。そのためにも、今後「名鉄グループ エコ・ビジョン」の策定や体制の構築、グループ各社との連携のための方策を早急に検討し、「環境にやさしい名鉄グループ」を具現化し、社会的責任の完遂をめざしてまいります。

平成17年9月

アクション・エコ推進委員会 委員長

代表取締役副社長

西川 富夫

表紙の説明



- ① 環境モデル駅(尾張瀬戸駅)
(詳細はP5)
- ② 東部丘陵線「Linimo」
(詳細はP27)
- ③ 人と自然が織りなす日本の風景百選「霞ヶ浦の帆引き舟」
(詳細はP28)
- ④ 2000系ミュースカイ
(詳細はP10)
- ⑤ 電気式ハイブリッドバス
(詳細はP12)
- ⑥ 里山ハイキング
(詳細はP21)
- ⑦ 環境イベント(南知多ビーチランド)
(詳細はP20)
- ⑧ 乗車券リサイクルベンチ(中部国際空港駅)
(詳細はP16)
- ⑨ 名駅をきれいにする名鉄グループの会
(詳細はP23)
- ⑩ 舞木検査場(ISO14001認証取得事業所)
(詳細はP4)



本報告書に関するお問合せ先

名古屋鉄道株式会社 アクション・エコ推進委員会事務局(経営企画部内)

〒450-8501 名古屋市中村区名駅一丁目2番4号 TEL (052) 588-0805 FAX (052) 588-0809

E-mail action-eco@nrr.meitetsu.co.jp URL <http://www.meitetsu.co.jp/meitetsu/eco/>



地球にウレシイを
この街から。

このキャンペーンマークは、豊かな地球環境の象徴であり、同時に名鉄エコ・ビジョンの基本理念を達成するための三要素—環境保全に対する「意識の向上」「技術力の向上」「地域との連携」—を3枚の若葉で表したものです。

名古屋鉄道株式会社 アクション・エコ推進委員会 平成17年9月発行



- 【用紙】 表紙/メイテツマット 110K 本文/メイテツマット 70K (乗車券40%、牛乳パック40%、古紙20%で配合された古紙配合率100%の再生紙を使用しています) 漂白のための塩素の使用はもちろん、無駄な表面塗工、特殊コーティングは施していません。
- 【インク】 大豆インクの使用により石油系溶剤の使用量、VOC (揮発性有機化合物) 発生を抑え、鉛、水銀、カドミウムなどの重金属も使用していません。
- 【印刷】 インク転写時にイソプロピルアルコールなどを含む湿し水が不要な、「水なし印刷」を採用しています。